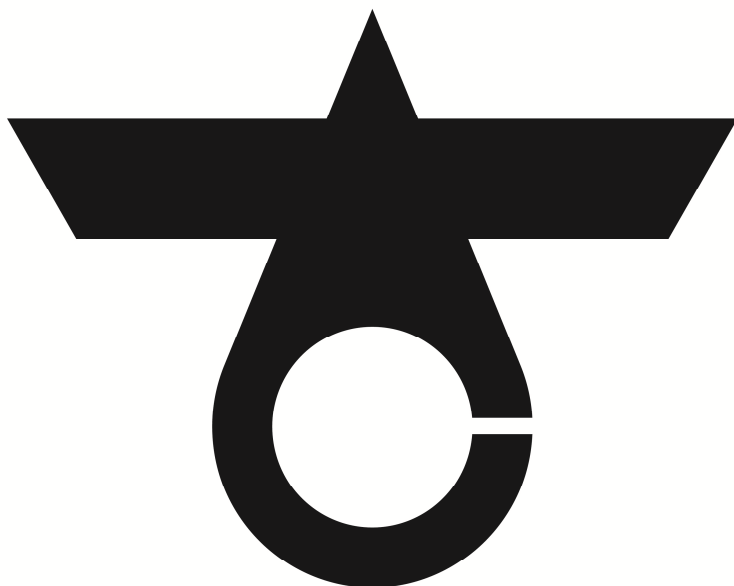


平成30年度 大阪狭山市教育委員会
点検・評価 報告書



平成31年3月
大阪狭山市教育委員会

目 次

1 事務の点検・評価について	ページ
(1) はじめに	5
(2) 点検・評価の対象	5
(3) 教育部及びこども政策部の運営方針	6
2 教育委員会の活動状況	
(1) 教育委員会委員名簿	10
(2) 教育委員会議等の開催状況	11
①教育委員会議	
②各種会議	
③教育委員会議以外での活動状況	
3 点検・評価調書	
I 子育てにやさしい環境づくり	
1. 放課後児童会事業	20
2. さやま元気っこ推進事業	21
3. 認定子育てサポーター事業	23
4. プレイセンター推進事業	24
5. 発達障がい児支援事業	25
6. 子育て支援・世代間交流センター整備事業	26
7. 子育て情報提供事業	27
8. 利用者支援事業	28
9. こどもフェスティバルの開催	29
10. 市立幼稚園等3歳児保育事業	30
11. 市立幼稚園等未就園児事業	31
12. 市立幼稚園等子育て支援事業	32
13. 幼保連携型認定こども園整備事業	33
14. 英語教育実施事業	34
15. 幼稚園就園奨励事業	35
16. コンビニエンスストア収納事業	36
17. 民間保育園等延長保育事業	37

Ⅱ 学ぶ力・生きる力を伸ばす教育環境づくり

1. 教育振興基本計画改定事業	40
2. 学校施設長寿命化計画策定事業	41
3. 学校施設大規模改造事業	
【第三中学校大規模改造（特別教室棟他）工事】	42
4. 小・中学校給食用エレベーター改修工事	
【北小学校他給食用エレベーター改修工事】	43
5. 防災拠点（屋内運動場）及び普通教室無線LAN整備事業	44
6. 学力向上推進事業	45
7. 家庭学習バックアップ事業	47
8. 学校評価・支援事業	48
9. 学校まるごとバック事業	49
10. 読書eプラン推進事業	50
11. 支援教育事業	51
12. 生徒指導支援事業	53
13. 体力向上推進事業	54
14. 家庭教育支援事業	55
15. 英語教育支援事業	56
16. 安全・安心スクール事業	57
17. キャリア教育推進事業	58
18. 学校給食センター施設改修事業	59
19. 備品購入（コンテナワゴン等更新）事業	60
20. 安心・安全な学校給食推進事業（食物アレルギー対応）	61

Ⅲ 生涯スポーツの推進

1. ドリームフェスティバル事業	63
2. スポーツ振興事業	64

Ⅳ 生涯学習の推進

1. 図書館管理事業	66
2. 社会教育センター管理事業	67

V 歴史文化の振興

1. 郷土資料館管理事業	69
2. 文化財保護推進事業 （大阪狭山市歴史文化基本構想の策定）	70
3. 狭山池の魅力発見活用事業 （狭山池シンポジウム）	71
4. 市史編さん事業	72
5. 埋蔵文化財発掘調査事業	73
6. 子ども向け講座実施事業	74

4 学識経験者等の意見	75
-------------	----



◆資料編

- ① 平成 30 年度市内小中学校の在籍数、学級数
- ② さやまっ子の夢をふくらませる教育
- ③ さやまの支援教育
- ④ 主体的・対話的で深い学び
- ⑤ 子どもが毎日、笑顔で過ごすために
- ⑥ 平成 30 年度全国学力・学習状況調査における結果と分析の概要について
- ⑦ 平成 30 年度大阪狭山市読書 e プランに係るコンクールの表彰について
- ⑧ 啐啄（134 号～142 号）
- ⑨ 学校給食における食物アレルギー対応について
- ⑩ 平成 30 年度夏休みこども歴史塾チラシ
- ⑪ 歴史文化セミナー簡修館チラシ
- ⑫ 大阪狭山市立郷土資料館企画展 明治維新 150 年・高野線開通 120 年記念
「南海高野線 120 年のあゆみーはじまりは大小路ー狭山間ー」チラシ
- ⑬ 狭山池シンポジウム 2018 チラシ
- ⑭ 平成 30 年度冬休みこども歴史塾チラシ
- ⑮ 市立幼稚園、認定こども園、民間保育所、小規模保育事業の在籍数、定員数
- ⑯ 第 11 回おおさかさやまこどもフェスティバルチラシ
- ⑰ あおぞら&あそびのひろばチラシ
- ⑱ ぽっぽえん利用者支援事業ー利用のご案内ー
- ⑲ 大阪狭山市発達障がい児等支援事業「手をつなGO！」
- ⑳ ペアレントトレーニング～つながろう～
- ㉑ 親子で楽しもう チェリービーンズ参加者募集
- ㉒ 「たんぽぽの会」 参加者募集
- ㉓ 東池尻「こぐまの会」 参加者募集
- ㉔ げんきっず 参加者募集のご案内
- ㉕ 親子であそぼう ヤミー！！ 参加者募集
- ㉖ ピーナッツクラブ参加者募集
- ㉗ 親子であそぼう きらきらきっず 参加者募集
- ㉘ 大阪狭山市子育て情報アプリ さやまっ子
- ㉙ “UP っぷ” オープニングイベントのお知らせ
- ㉚ 未就園児事業チラシ（東幼稚園・半田幼稚園・東野幼稚園）

1 事務の点検・評価について

(1) はじめに

地方教育行政の組織及び運営に関する法律において、教育委員会は、教育行政事務の管理執行状況について、自己点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出し、公表しなければならないと定められています。

大阪狭山市教育委員会では、法の趣旨に則り、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民のみなさんへの説明責任を果たすため、「教育委員会の点検・評価」を実施し、次のとおり報告書にまとめましたので公表します。

参 考

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第二十六条

教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

(2) 点検・評価の対象

点検・評価は、教育委員会が定めた「平成30年度大阪狭山市教育部運営方針」及び「平成30年度大阪狭山市こども政策部運営方針」に掲げた事業等を対象とします。

☞運営方針とは

大阪狭山市では、内なる分権、すなわち行政内部における権限移譲を進めるため、枠配分予算の導入や目標による管理システムの構築などに取り組んできました。

これは組織運営の基本を、従来のトップダウンによる意思決定方式から、職員がそれぞれの役割と責任を明確化した上で、創意工夫を図りながら職務を遂行する、地方分権型社会にふさわしい自律した行政組織への転換が必要であると考えたからです。

部の運営方針とは、この考え方にに基づき、各部が自らの使命を明らかにした上で、当該年度の予算について、重点的に取り組む施策と個別事業の概要について、主体的に取りまとめたものです。

(3) 教育部及びこども政策部の運営方針

I 子育てにやさしい環境づくり

- 保護者の子育てを支援するため、放課後児童会事業を引き続き実施するとともに、民間事業者のノウハウを活用し放課後児童会事業の充実を図るため、北放課後児童会を事業委託します。
- 放課後児童支援員等への指導・アドバイス、支援員等からの相談に適切に対応できるよう「放課後児童会アドバイザー」を新設します。
- 放課後に子どもたちがさまざまな活動を体験できる「さやま元気っこ推進事業」を引き続き実施するとともに、東小学校での開催日数を増やして実施します。
- 放課後児童会、さやま元気っこ推進事業、総合型地域スポーツクラブとの連携など、子どもたちの放課後や休日の過ごし方について、今後どのような施策展開が可能か、調査研究を進めます。
- 平成27年度から施行した子ども・子育て支援新制度に係る各事業について、「さやまっ子のびのびプラン」（大阪狭山市子ども・子育て支援事業計画）に基づき取組みを進めます。
- 子育て支援と世代間交流の機能を併せ持つ、（仮称）第2子育て支援センターの開設に向け準備を進めます。
- ぽっぽえん等の拠点施設で取組む子育て支援事業のほか、認定子育てサポーターを育成し、地域でのつながりをさらに深め、子育て家庭を支援します。また、親と子が共に成長できるプレイセンターの円滑な運営をサポートします。
- 市立幼稚園では、平成29年度から実施している3歳児保育のさらなる充実につとめます。また、長期休業中や保育時間開始前も含め年間を通じて預かり保育を実施し、保護者の就労支援につとめるとともに、初めての集団保育が経験できるよう、2歳児対象の未就園児事業を週1回程度実施し、魅力ある幼稚園づくりを進めます。
- 適切な規模の子どもの集団を確保するとともに、保育の受け皿を拡大するため、幼保連携型認定こども園の開設準備を進めます。

【主な事業】

1. 放課後児童会事業（社会教育・スポーツ振興グループ）
2. さやま元気っこ推進事業（社会教育・スポーツ振興グループ）
3. 認定子育てサポーター事業（子育て支援グループ）
4. プレイセンター推進事業（子育て支援グループ）
5. 発達障がい児支援事業（子育て支援グループ）
6. 子育て支援・世代間交流センター整備事業（子育て支援グループ）
7. 子育て情報提供事業（子育て支援グループ）
8. 利用者支援事業（子育て支援グループ）
9. こどもフェスティバルの開催（子育て支援グループ）
10. 市立幼稚園等3歳児保育事業（保育・教育グループ）
11. 市立幼稚園等未就園児事業（保育・教育グループ）
12. 市立幼稚園等子育て支援事業（保育・教育グループ）
13. 幼保連携型認定こども園整備事業（保育・教育グループ）
14. 英語教育実施事業（保育・教育グループ）
15. 幼稚園就園奨励事業（保育・教育グループ）
16. コンビニエンスストア収納事業（保育・教育グループ）

Ⅱ 学ぶ力・生きる力を伸ばす教育環境づくり

- 「大阪狭山市教育振興基本計画」の計画期間満了に伴い、平成30年度から2か年かけて改定を行います。
- 第三中学校（特別教室棟等）の大規模改修工事を実施します。また、北小学校と南第三小学校の給食用エシベーターの改修工事を実施します。
- 学校施設の長寿命化を計画的・効率的に実施するため、施設の劣化状況を調査し、その結果に基づく「学校施設長寿命化計画」を平成30年度からの2か年で策定します。
- これからの学校園のあり方検討会を開催し、学校規模の適正化やコミュニティスクール導入に向けた検討を行います。
- 「大阪狭山市教育振興基本計画」の基本理念に基づいた「保育教育指針」を掲げ、学校（園）、保護者、地域のみなさんと連携しながら、これまでの取組みの継続発展を図るとともに、新たな教育活動を推進します。
- 学校力の向上を図るため、中学校元気あっぷ事業、学校づくり応援事業、学校まるごとパック事業を継続し、大学との連携や外部評価を進めながら、学校教育活動の充実を図ります。
- 学力の向上を図るため、先進地視察を継続的にを行い、その成果を指導の工夫や改善に役立てます。
- 次期学習指導要領の全面実施に向けて、子どもの学習意欲を高める「主体的・対話的で深い学び」の視点から学習改善を推進します。
- ICT機器がより有効に活用できるよう、小中学校のすべての普通教室に無線LANを整備し、子どもたちの学習意欲を高めます。また、災害時に避難所となる屋内運動場（体育館）にも無線LANを整備し、災害時の通信インフラ確保に努めます。
- 教員による手づくり教材である「自ら学ぶノート」を活用し、学習習慣の定着を図ります。
- 中学生を対象とした学習支援を土曜日や長期休業中に実施し、子どもたちの学習環境の保障ができるよう努めます。
- 教員と学校図書館司書とが連携し、読書活動がいっそう充実できるよう指導するとともに、国語力向上の取組みを進めます。また、学校図書館の図書廃棄基準に基づき、学校図書の蔵書率向上と適切な更新に努めます。
- 授業だけでなく学校生活のさまざまな場面で、ALTと英語でコミュニケーションがとれる環境づくりに努め、生きた英語力の育成を図ります。
- 中学生全学年を対象にスコア型英語能力検定を実施し、生徒の「聞く・話す・読む・書く」の4技能をバランスよく育成します。
- 心の力の向上を図るため、「特別の教科道徳」の授業づくりや評価の充実にも努めます。
- スクールカウンセラー（SC）やスクールソーシャルワーカー（SSW）を積極的に活用し、いじめなど子どもを取り巻く諸課題の未然防止や相談体制の充実を図ります。
- 体力の向上を図るため、小中学校の教員で構成する「体力向上プロジェクト」による研究をさらに推進するとともに、学校生活全体を通じて、体力向上や集団づくりを促進します。
- 大阪府の人権教育推進事業の指定モデル校を中心に、発達の段階に応じて人権の意義・内容の重要性を理解し、「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること」ができる子どもの育成に努めます。

- 学校給食センターの改修工事を計画的に行い、より安全で安心な学校給食の充実を図ります。
- 配送用のコンテナワゴンや学校で使用する配膳台を計画的に更新します。
- 食物アレルギー除去食を引き続き提供します。

【主な事業】

1. 教育振興基本計画改定事業（教育総務グループ）
2. 学校施設長寿命化計画策定事業（教育総務グループ）
3. 学校施設大規模改造事業
【第三中学校大規模改造（特別教室棟他）工事】（教育総務グループ）
4. 小・中学校給食用エレベーター改修工事
【北小学校他給食用エレベーター改修工事】（教育総務グループ）
5. 防災拠点（屋内運動場）及び普通教室無線LAN整備事業（教育総務グループ）
6. 学力向上推進事業（学校教育グループ）
7. 家庭学習バックアップ事業（学校教育グループ）
8. 学校評価・支援事業（学校教育グループ）
9. 学校まるごとバック事業（学校教育グループ）
10. 読書eプラン推進事業（学校教育グループ）
11. 支援教育事業（学校教育グループ）
12. 生徒指導支援事業（学校教育グループ）
13. 体力向上推進事業（学校教育グループ）
14. 家庭教育支援事業（学校教育グループ）
15. 英語教育支援事業（学校教育グループ）
16. 安全・安心スクール事業（学校教育グループ）
17. キャリア教育推進事業（学校教育グループ）
18. 学校給食センター施設改修事業（学校給食グループ）
19. 備品購入（コンテナワゴン等更新）事業（学校給食グループ）
20. 安全・安心な学校給食推進事業（食物アレルギー対応）（学校給食グループ）

Ⅲ 生涯スポーツの推進

- 市民の体力維持・向上を図るため、体育協会や総合型地域スポーツクラブと連携した事業を実施します。
- 地域住民とのコミュニケーションづくりを進めるため、狭山中学校区で「さやりんピック」を開催します。
- 市民が気軽にプロ野球観戦できるよう、大阪狭山市、富田林市、河内長野市と3市共催でドリームフェスティバルを実施します。
- 総合体育館（野球場）の高圧受電設備用ケーブルを改修します。また総合体育館の消火栓設備を改修します。

【主な事業】

1. ドリームフェスティバル事業（社会教育・スポーツ振興グループ）
2. スポーツ振興事業（社会教育・スポーツ振興グループ）

Ⅳ 生涯学習の推進

- 社会教育センターの空調設備取替え工事を実施します。
- 大阪狭山市駅、金剛駅付近に設置している図書返却ポストを、新たに狭山駅付近にも新設します。

【主な事業】

1. 図書館管理事業（社会教育・スポーツ振興グループ）
2. 社会教育センター管理事業（社会教育・スポーツ振興グループ）

Ⅴ 歴史文化の振興

- 文化財や歴史文化遺産を活かした魅力的なまちづくりを推進するためのマスタープランとしての役割を果たす「大阪狭山市歴史文化基本構想」を策定します。
- 明治維新150周年、南海高野線開通120周年の節目の年を迎え、「（仮称）南海高野線120年の歩み」と題した企画展を、狭山池博物館・郷土資料館で開催します。

【主な事業】

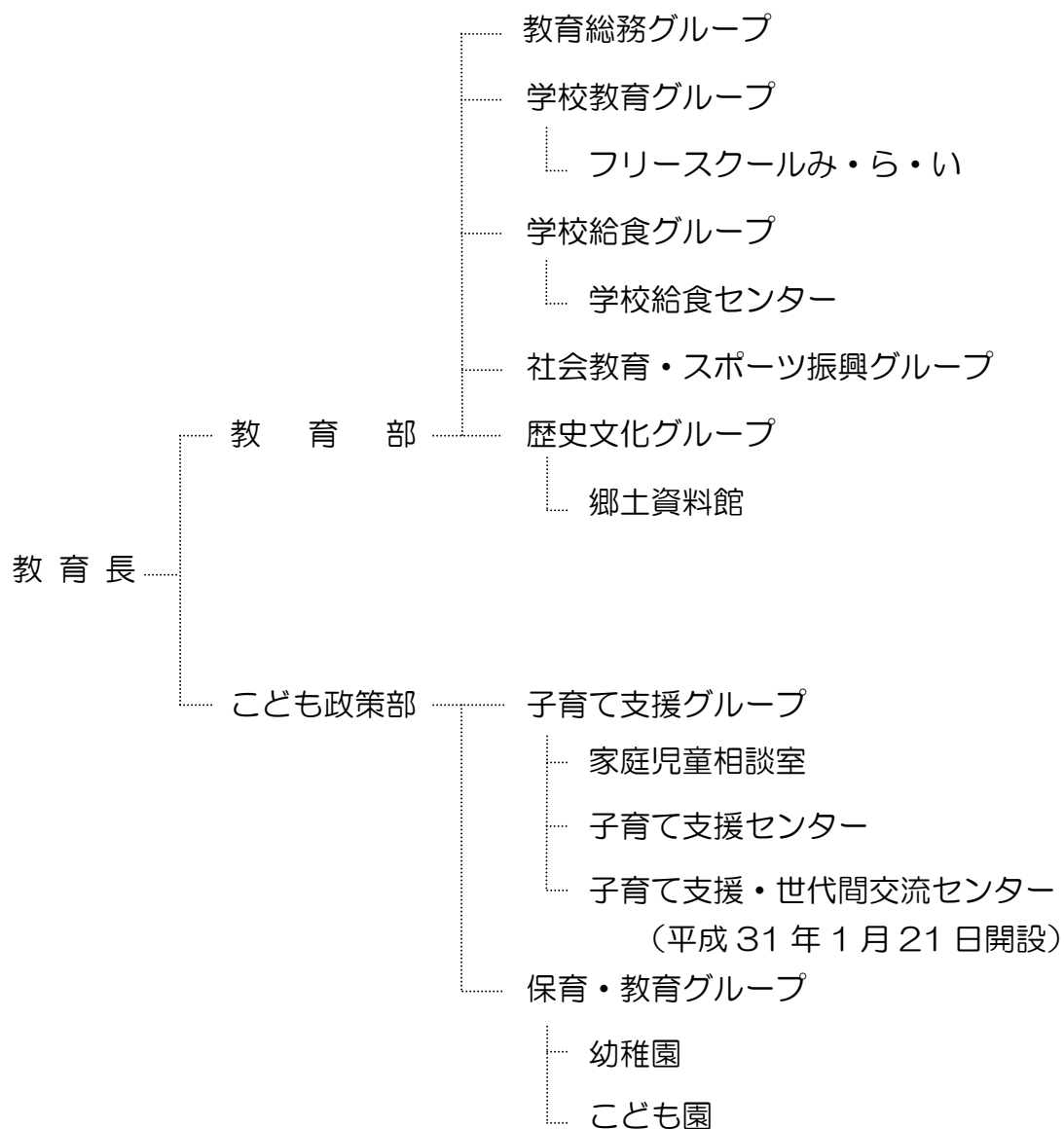
1. 郷土資料館管理事業（歴史文化グループ）
2. 文化財保護推進事業（大阪狭山市歴史文化基本構想の策定）（歴史文化グループ）
3. 狭山池の魅力発見活用事業（狭山池シンポジウム）（歴史文化グループ）
4. 市史編さん事業（歴史文化グループ）
5. 埋蔵文化財発掘調査事業（歴史文化グループ）
6. 子ども向け講座実施事業（歴史文化グループ）

2 教育委員会の活動状況

(1) 大阪狭山市教育委員会委員名簿（平成 30 年度在籍）

職 名	氏 名	備 考
教育長	長谷 雄二	
教育長職務代理者	山崎 貢	
委員	田川 宜子	
委員	河合 洋次	
委員	井上 寿美	平成 30 年 10 月 1 日新任
委員	長瀬 美子	平成 30 年 9 月 30 日退任

【教育委員会事務局組織図】



(2) 教育委員会議等の開催状況（平成 30 年 2 月～平成 31 年 1 月）

①教育委員会議

▽定例会議

区 分	日 時	付 議 案 件
平成 30 年 第 2 回	平成 30 年 2 月 23 日 (金)	平成 30 年度大阪狭山市保育教育指針について 史跡狭山池保存活用計画（案）について 平成 29 年度（2017 年度）大阪狭山市一般会計補正予算（教育委員会関係）について 平成 30 年度（2018 年度）大阪狭山市一般会計予算（教育委員会関係）について
第 3 回	3 月 28 日 (水)	大阪狭山市教育委員会公印規則の一部を改正する規則について 平成 31 年度使用小学校教科用図書（道徳）の採択に係る諮問について 平成 29 年度大阪狭山市教育委員会点検・評価報告書について 平成 29 年度（2017 年度）大阪狭山市一般会計補正予算（教育委員会関係）について 平成 30 年度（2018 年度）大阪狭山市一般会計予算（教育委員会関係）について 大阪狭山市立こども園・幼稚園・小学校・中学校及び教育委員会事務局の管理職人事異動について 大阪狭山市人権教育基本方針の改訂について
第 4 回	4 月 20 日 (金)	大阪狭山市社会教育委員の委嘱について
第 5 回	5 月 24 日 (木)	大阪狭山市立小学校及び中学校の管理運営に関する規則及び大阪狭山市立幼稚園の管理運営に関する規則の一部を改正する規則について 社会教育委員の委嘱について 大阪狭山市立第三中学校大規模改造（特別教室棟他）工事について 大阪狭山市立学校給食センター改修工事（3 期）について 大阪狭山市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について 大阪狭山市立幼稚園設置に関する条例の一部を改正する条例について 大阪狭山市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について 平成 30 年度（2018 年度）大阪狭山市一般会計補正予算（教育委員会関係）について

第 6 回	6 月 28 日 (木)	大阪狭山市教育委員会教育長職務代理者の事務の委任に関する規則について 大阪狭山市立中学校教科用図書（道徳）選定委員の委嘱及び任命について 大阪狭山市いじめ問題対策委員会委員の委嘱及び任命について 大阪狭山市就学支援委員会委員の委嘱及び任命について 大阪狭山市狭山池総合学術調査委員会委員の委嘱について
第 7 回	7 月 26 日 (木)	平成 31 年度使用小学校教科用図書の採択について 平成 31 年度使用中学校教科用図書の採択について 大阪狭山市児童生徒就学援助費支給要綱の一部を改正する要綱について
第 8 回	8 月 30 日 (木)	平成 31 年度市立幼稚園・こども園募集人員の設定について 大阪狭山市立子育て支援・世代間交流センター条例について 指定管理者の指定について 指定管理者の指定について 平成 30 年度（2018 年度）大阪狭山市一般会計補正予算（教育委員会関係）について
第 9 回	9 月 26 日 (水)	平成 30 年度大阪狭山市教育委員会文化教育功労者表彰被表彰者の決定について 平成 30 年度全国学力・学習状況調査における結果と分析の概要について 平成 29 年度（2017 年度）大阪狭山市一般会計決算（教育委員会関係）について
第 10 回	10 月 18 日 (木)	大阪狭山市教育委員会傍聴規則の一部を改正する規則について 大阪狭山市指定文化財の指定について 平成 30 年度（2018 年度）大阪狭山市一般会計補正予算（教育委員会関係）について
第 11 回	11 月 19 日 (月)	なし
第 12 回	12 月 20 日 (木)	大阪狭山市立子育て支援・世代間交流センター条例施行規則について 大阪狭山市教育委員会事務決裁規程の一部を改正する規程について 「大阪狭山市歴史文化基本構想」（素案）について 平成 30 年度（2018 年度）大阪狭山市一般会計補正予算（教育委員会関係）について
平成 31 年 第 1 回	平成 31 年 1 月 31 日 (木)	「大阪狭山市歴史文化基本構想」について 平成 30 年度大阪狭山市教育振興基本計画策定委員会の委嘱及び任命について 教職員の働き方改革について 平成 30 年度（2018 年度）大阪狭山市一般会計補正予算（教育委員会関係）について 市立公民館・図書館、市立学校給食センター視察

②各種会議

▽大阪狭山市いじめ問題対策委員会

区 分	日 時	会 議 内 容
平成 29 年度 第 3 回	平成 30 年 2 月 19 日 (月)	無記名アンケートの結果 市内の状況について
平成 30 年度 第 1 回	5 月 14 日 (月)	事業等の説明、委員長・副委員長の決定 いじめリーフレットについて
第 2 回	10 月 29 日 (月)	今年度の市内の状況について 無記名アンケートについて

▽大阪狭山市就学支援委員会

区 分	日 時	会 議 内 容
平成 29 年度 第 3 回	平成 30 年 2 月 20 日 (火)	来年度の就学予定について 来年度の支援教育基本方針（案）について
平成 30 年度 第 1 回	7 月 10 日 (火)	就学支援委員会の組織と活動内容、委員長・副委員長の選出 支援学級の状況、今年度中学校へ進学する児童の就学について
第 2 回	10 月 29 日 (月)	平成 31 年度入学児童生徒の就学相談状況について

▽大阪狭山市社会教育委員会

	日 付	会 議 内 容
平成 29 年度 第 6 回	平成 30 年 3 月 29 日 (木)	今後の社会教育施設の整備について
平成 30 年度 第 1 回	5 月 21 日 (月)	今後の社会教育施設の整備について
第 2 回	8 月 7 日 (火)	平成 29 年度社会教育関係団体事業費補助金実績報告について 平成 30 年度社会教育関係団体事業費補助金申請について 今後の社会教育施設の整備について
第 3 回	10 月 29 日 (月)	今後の社会教育施設の整備について
第 4 回	12 月 17 日 (月)	今後の社会教育施設の整備について

▽大阪狭山市文化財保護審議会

	日 付	会 議 内 容
平成 29 年度 第 2 回	平成 30 年 2 月 20 日 (火)	市指定文化財候補物件の諮問について 市指定文化財の調査について
平成 30 年度 第 1 回	10 月 3 日 (火)	諮問物件の調査報告について 諮問物件の答申について 次期市指定文化財候補について 市立郷土資料館企画展及び狭山池シンポジウム 2018 について

▽大阪狭山市狭山池総合学術調査委員会

	日 付	会 議 内 容
第 14 回	平成 30 年 2 月 22 日 (木)	『(仮) 史跡狭山池 保存活用計画書』(案) の検討
第 15 回	7 月 25 日 (水)	『史跡狭山池 保存活用計画書』の刊行について 今後の展開と課題について

▽大阪狭山市歴史文化基本構想策定委員会

	日 付	会 議 内 容
第 3 回	平成 30 年 4 月 12 日 (木)	平成 30 年度の策定スケジュールについて 平成 30 年度の策定にともなう調査について 歴史文化基本構想の構成(案)について 歴史文化基本構想(素案)第 1 章～第 4 章について 歴史文化基本構想シンポジウムについて 歴史文化基本構想シンポジウム(30 年 3 月実施)について 史跡狭山池保存活用計画の策定について
第 4 回	7 月 7 日 (土)	大阪狭山市歴史文化基本構想素案の検討 狭山池シンポジウム 2018 について
第 5 回	10 月 4 日 (木)	大阪狭山市歴史文化基本構想(素案)について 狭山池シンポジウム・企画展について
第 6 回	11 月 28 日 (水)	大阪狭山市歴史文化基本構想(素案)の検討 平成 30 年度大阪狭山市歴史文化基本構想シンポジウムの開催について 大阪狭山市立郷土資料館企画展の開催について

▽大阪狭山市青少年問題協議会

	日 付	会 議 内 容
平成 30 年度 第 1 回	平成 30 年 8 月 29 日 (水)	大阪狭山市の青少年問題について 事例発表 「青少年問題の現状」 大阪府黒山警察署 生活安全課長 美島 徹司

▽大阪狭山市学校給食衛生管理委員会

区 分	日 時	会 議 内 容
平成 30 年度 第 1 回	平成 30 年 10 月 30 日 (火)	学校給食センター及び各小中学校配膳室を衛生管理委員が巡視した。

▽大阪狭山市立子育て支援センター運営会議

区 分	日 時	会 議 内 容
平成 30 年度 第 1 回	平成 30 年 4 月 26 日 (木)	平成 30 年度子育て支援センター事業について 地域子育て支援センター及び広場事業の現状について
第 2 回	平成 31 年 1 月 31 日 (木)	平成 30 年度子育て支援センター事業、子育て支援・世代間交流センター事業について

▽大阪狭山市子ども・子育て協議会

区 分	日 時	会 議 内 容
平成 29 年度 第 2 回	平成 30 年 3 月 6 日 (火)	子ども・子育て支援事業計画に係る平成 28 年度事業の評価について 保育所及び幼保連携型認定こども園の利用定員の設定について
平成 30 年度 第 1 回	9 月 27 日 (木)	子ども・子育て支援事業計画に係る事業の進捗状況について 子ども・子育て支援事業計画の中間見直しについて

③教育委員会会議以外での活動状況

▽学校関係

日	内 容	場 所
平成 30 年 3 月 14 日 (水)	市立中学校卒業式	市内各中学校
3 月 15 日 (木)	市立幼稚園・こども園修了式	市内各幼稚園・こども園
3 月 19 日 (月)	市立小学校卒業式	市内各小学校
4 月 6 日 (金)	市立小中学校入学式	市内各小中学校
4 月 9 日 (月)	市立幼稚園・こども園入園式	市内各幼稚園・こども園
6 月 7 日 (木)	小学校連合運動会	市民総合グラウンド
9 月 11 日 (火)	市立東小学校まるごとパック	東小学校
9 月 28 日 (金)	市立中学校体育大会	南中学校、第三中学校
10 月 5 日 (金)	市立中学校体育大会	狭山中学校
10 月 6 日 (土)	市立幼稚園・こども園運動会	東野幼稚園・こども園
10 月 7 日 (日)	市立幼稚園運動会	東幼稚園
10 月 8 日 (月)	市立幼稚園運動会	半田幼稚園

10月21日(日)	市立小学校運動会	市内各小学校
12月4日(火)	市立南第一小学校まるとパック	南第一小学校
平成31年 1月17日(木)	市立南中学校まるとパック	南中学校
1月18日(金)	市立第七小学校まるとパック	第七小学校

▽会議・研修関係

日	内 容	場 所
平成30年 2月14日(水)	平成29年度市町村教育委員会委員長・教育長会議	アウィーナ大阪
4月5日(木)	平成30年度市町村教育委員会教育長会議	アウィーナ大阪
4月16日(月)	南河内地区市町村教育長連絡協議会(第1回) 南河内地区人事協議会(第1回)	南河内府民センター
4月27日(木)	平成29年度大阪府都市教育委員会連絡協議会第3回役員会	アゴーラ大阪守口
5月17日(木) ～ 5月18日(金)	全国都市教育長協議会定期総会及び研究大会	一関文化センター
5月24日(木)	平成30年度大阪府都市教育委員会連絡協議会定期総会	アウィーナ大阪
7月3日(火)	大阪府都市教育長協議会・7月定例会	アウィーナ大阪
7月6日(金)	南河内地区市町村教育長連絡協議会(第2回) 南河内地区人事協議会(第2回)	南河内府民センター
7月27日(金)	大阪府都市教育長協議会夏季研修会(1日目)	アウィーナ大阪
11月16日(金)	南河内地区市町村教育委員会研修会	道明寺天満宮天寿殿
11月19日(月)	総合教育会議	大阪狭山市役所
平成31年 1月11日(金)	大阪府都市教育長協議会・1月定例会	アウィーナ大阪
1月25日(金)	南河内地区市町村教育長連絡協議会(第3回) 南河内地区人事協議会(第3回)	羽曳野市役所
1月31日(木)	大阪府都市教育委員会研修会	アウィーナ大阪

▽その他

日	内 容	場所
平成 30 年 5 月 6 日(日)	市民体育大会開会式  選手集合	総合体育館
8 月 4 日(土)	平和を考える市民のつどい	SAYAKA ホール 小ホール
11 月 3 日(土)	文化教育功労者表彰式  全員集合写真	SAYAKA ホール 小ホール
11 月 24 日(土)	おおさかさやまこどもフェスティバル  半田幼稚園 発表	SAYAKA ホール 大ホール
12 月 9 日(日)	人権を考える市民のつどい	公民館・大集会室
平成 31 年 1 月 14 日(月)	成人式  花束贈呈	SAYAKA ホール 大ホール

3 点検・評価調書

I 子育てにやさしい環境づくり

- 保護者の子育てを支援するため、放課後児童会事業を引き続き実施するとともに、民間事業者のノウハウを活用し放課後児童会事業の充実を図るため、北放課後児童会を事業委託します。
- 放課後児童支援員等への指導・アドバイス、支援員等からの相談に適切に対応できるよう「放課後児童会アドバイザー」を新設します。
- 放課後に子どもたちがさまざまな活動を体験できる「さやま元気っこ推進事業」を引き続き実施するとともに、東小学校での開催日数を増やして実施します。
- 放課後児童会、さやま元気っこ推進事業、総合型地域スポーツクラブとの連携など、子どもたちの放課後や休日の過ごし方について、今後どのような施策展開が可能か、調査研究を進めます。
- 平成27年度から施行した子ども・子育て支援新制度に係る各事業について、「さやまっ子のびのびプラン」（大阪狭山市子ども・子育て支援事業計画）に基づき取組みを進めます。
- 子育て支援と世代間交流の機能を併せ持つ、（仮称）第2子育て支援センターの開設に向け準備を進めます。
- ぽっぽえん等の拠点施設で取組む子育て支援事業のほか、認定子育てサポーターを育成し、地域でのつながりをさらに深め、子育て家庭を支援します。また、親と子が共に成長できるプレイセンターの円滑な運営をサポートします。
- 市立幼稚園では、平成29年度から実施している3歳児保育のさらなる充実につとめます。また、長期休業中や保育時間開始前も含め年間を通じて預かり保育を実施し、保護者の就労支援につとめるとともに、初めての集団保育が経験できるよう、2歳児対象の未就園児事業を週1回程度実施し、魅力ある幼稚園づくりを進めます。
- 適切な規模の子どもの集団を確保するとともに、保育の受け皿を拡大するため、幼保連携型認定こども園の開設準備を進めます。

【主な事業】

1. 放課後児童会事業（社会教育・スポーツ振興グループ）
2. さやま元気っこ推進事業（社会教育・スポーツ振興グループ）
3. 認定子育てサポーター事業（子育て支援グループ）
4. プレイセンター推進事業（子育て支援グループ）
5. 発達障がい児支援事業（子育て支援グループ）
6. 子育て支援・世代間交流センター整備事業（子育て支援グループ）
7. 子育て情報提供事業（子育て支援グループ）
8. 利用者支援事業（子育て支援グループ）
9. こどもフェスティバルの開催（子育て支援グループ）
10. 市立幼稚園等3歳児保育事業（保育・教育グループ）
11. 市立幼稚園等未就園児事業（保育・教育グループ）
12. 市立幼稚園等子育て支援事業（保育・教育グループ）
13. 幼保連携型認定こども園整備事業（保育・教育グループ）
14. 英語教育実施事業（保育・教育グループ）
15. 幼稚園就園奨励事業（保育・教育グループ）
16. コンビニエンスストア収納事業（保育・教育グループ）
17. 民間保育園等延長保育事業（保育・教育グループ）

平成 30 年度点検・評価調書

施 策 名	子育てにやさしい 環境づくり	担当グループ	社会教育・スポーツ振興グループ
事 業 名	放課後児童会事業		
概 要	保護者が就労等により昼間家庭にいない児童を対象に、遊びや生活の場を提供する放課後児童会事業を全小学校で開設。 不足する放課後児童支援員の安定的な確保等を目的に、その処遇改善に努める。併せて、放課後児童会総括支援員を 1 人増員し、さらに、新たに放課後児童会に精通した人材として「放課後児童会アドバイザー」を設置することで児童や支援員等の困り感に対応できる体制づくりを推進する。 その他、今年度より北放課後児童会を民間委託し、民間ならではの柔軟な運営体制のもと、サービス水準の維持・向上をめざす。また、耐用年数の経過に伴う空調機の不調のため、南第二放課後児童会空調機入替工事を行う。		
成果と評価	放課後児童支援員及び放課後児童支援員補助員の処遇改善として、新たに週 5 日及び週 4 日勤務の嘱託員を創設し、月額報酬制の放課後児童支援員を導入した。また、アルバイト支援員等の時給を各々 50 円増額した。 第七放課後児童会に専任の放課後児童会総括支援員を配置した。また、巡回放課後児童会総括支援員による各現場に対する助言や指導などに加え、それを補完・強化する目的で「放課後児童会アドバイザー」を設置し、実効性のある成果が得られた。 昨年度施工を終え、新たに運用を開始した北放課後児童会専用教室について、民間委託先との連携による安定した運営が行えた。 南第二放課後児童会空調機入替工事により、特に夏休み期間等の安全で快適な生活環境を確保・提供することができた。		
今後の課題 と目標	年々、放課後児童会入会希望者が増加していく中で、待機児童を出さない取組みとして、放課後児童会のみではない「放課後の居場所づくり」を推進していく必要がある。また、引き続き、放課後児童会運営を安全・安心して行っていくために、放課後児童支援員の雇用を更に拡充していくことも重要である。 今後とも、「大阪狭山市放課後児童会条例」及び「大阪狭山市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例」を遵守し、恒常的に児童の健全な育成が図られるよう努めていかなければならない。		
【課長コメント】			
放課後児童会入会希望者増加に伴い、特に待機児童の課題に早急な対応が求められているため、学校や地域との連携も含め、児童が放課後の時間に安全・安心して遊び・学び・生活できる総合的な「放課後の居場所づくり」の確保・創設を進めていきたい。			

平成 30 年度点検・評価調書

施 策 名	子育てにやさしい 環境づくり	担当グループ	社会教育・スポーツ振興グループ
事 業 名	さやま元気っこ推進事業		
概 要	子どもたちが、放課後に安全で安心して過ごせる新しいカタチの居場所づくりとして、安全・安心な子どもの活動拠点をめざし、遊び・体験・交流・学習支援など様々な分野の場を提供する。 ◇東小元気っこクラブ 期間 平成 30 年 6 月 6 日(水)～平成 31 年 3 月 6 日(水) 年間 75 回 夏休み、冬休みを除く 月曜・水曜・金曜 活動場所 教室・体育館 ◇西小元気っこクラブ 期間 平成 30 年 6 月 6 日(水)～平成 31 年 3 月 6 日(水) 年間 81 回 夏休み、冬休みを除く 月曜・水曜・木曜 活動場所 教室・体育館 ◇南一小こども広場 期間 平成 30 年 6 月 6 日(水)～平成 31 年 3 月 6 日(水) 年間 45 回 夏休み、冬休みを除く 月曜・水曜 活動場所 教室・体育館 ◇南二小元気っこクラブ 期間 平成 30 年 6 月 6 日(水)～平成 31 年 3 月 6 日(水) 年間 81 回 夏休み、冬休みを除く 月曜・水曜・金曜 活動場所 教室・体育館 ◇南三小元気っこクラブ 期間 平成 30 年 6 月 6 日(水)～平成 31 年 3 月 6 日(水) 年間 80 回 夏休み、冬休みを除く 月曜・水曜・金曜 活動場所 教室・体育館・運動場 ◇北小こども広場 期間 平成 30 年 6 月 6 日(水)～平成 31 年 3 月 6 日(水) 年間 21 回 夏休み、冬休みを除く 水曜 活動場所 教室・体育館 ◇第七小こども広場 期間 平成 30 年 6 月 6 日(水)～平成 31 年 3 月 6 日(水) 年間 30 回 夏休み、冬休みを除く 水曜 活動場所 教室・体育館 ◇活動時間 前期 6 月～10 月 14 時 45 分～16 時 45 分 (全校同じ) 後期 11 月～ 3 月 14 時 45 分～16 時 30 分		

	プログラム内容				
		月	水	木	金
	東 小	テニス	こども広場	*****	バドミントン
	西 小	日本舞踊	達磨拳	こども広場	*****
	南一小	茶道	こども広場	*****	*****
	南二小	合唱	空 手	*****	こども広場
	南三小	サッカー 日本舞踊	こども広場	*****	バスケットボ ール
	北	*****	こども広場	*****	*****
	第七	*****	こども広場	*****	*****
	◇夏休み 全校 1 日間(10 時～12 時、13 時～15 時) 工作 (王冠、ティアラ)				
成果と評価	平成 16 年度より、放課後の子どもたちの居場所づくり事業として「こども広場」を実施。平成 23 年度までに「こども広場」を南第一小、第七小、東小、北小で実施。 平成 24 年度より、「こども広場」「学習チューター事業」「放課後児童会」の連携を図り、遊び・体験・交流・学習支援など様々な分野の場を提供することを目的に、「こども広場」の実施していない南第三小において試行的に「南三小元気っこクラブ」を実施。 ※「南三小元気っこクラブ」とし、サッカー、日本舞踊、エイサー、将棋、自由遊び等を週 4 回実施 (土曜日含む) 平成 25 年度より、「南三小元気っこクラブ」(週 3 回)を 6 月より本格実施。 平成 26 年度より、「南三小元気っこクラブ」(週 3 回)に加え、「西小元気っこクラブ」(週 3 回)を実施。 平成 27 年度後期より、試行的に「南二小元気っこクラブ」(週 2 回)を加え、「こども広場」「元気っこクラブ」を市内全小学校で実施。 平成 28 年度より、「南二小元気っこクラブ」(週 2 回)を 6 月より本格実施。 平成 29 年度より、「南二小元気っこクラブ」合唱を加え、週 3 回実施。また、「東小こども広場」にバドミントンを加え、「東小元気っこクラブ」(週 2 回)とし、実施。 平成 30 年度より、「東小元気っこクラブ」テニスを加え週 3 回実施。また、「南一小こども広場」に茶道を加え、「南一小元気っこクラブ」(週 2 回)とし、実施。 週 1 回の「こども広場」に対し、週 2～3 回の「元気っこクラブ」にシフトすることで、子どもたちの居場所が拡大している。 ※「元気っこクラブ」にシフトしていない小学校は、北小、第七小の 2 校。				
今後の課題 と目標	「元気っこクラブ」と「こども広場」は、目的が同じで一つのグループが実施しているが、開始時期、実施方法が違ったため、統一が図られていなかった。 現在、「元気っこクラブ」にシフトしている学校が全 7 校中 5 校となっており、徐々に統一的な運営がなされてきている。 今後は、中学校区に 1 人ずつの元気っこコーディネーターを配置し、全校で「元気っこクラブ」の実施を行い、放課後児童会事業の補完的な役割も担えるよう、相互の連携を図っていく。				
【課長コメント】					
地域や各種団体等と連携しながら、児童が放課後多様な体験や活動ができるよう「さやま元気っ子推進事業」の充実に努めたい。					

平成 30 年度点検・評価調書

I - 3

施 策 名	子育てにやさしい 環境づくり	担当グループ	子育て支援グループ	
重点事業	認定子育てサポーター事業			
概 要	子育てや保育経験のある市民を対象に、養成講座を実施し、受講者を子育てサポーターとして認定する。子育てサポーターによる新しい取組によって、各地域での子育て支援の充実を図る。			
成果と評価	子育てサポーター登録者数…93 人 【活動実績】 (平成 30 年 12 月末現在)			
		場 所	回数	参加人数
	あおぞらひろば	大野台第 6 公園、 狭山池博物館屋上庭園、	10 回	63 組
		市内幼稚園 3 か所 こども園 1 か所	34 回	202 組
	あそびのひろば	川向地区会館 池尻コミュニティーホール 南海狭山住宅自治会館 東野地区公民館 茱萸木中央公民館 下今熊地区会館	30 回	171 組
◇その他の取組として、保育所・幼稚園・小学校で実施する「えほんのひろば」や、プレイセンター事業の協力を行った。幼稚園の 3 歳児保育や未就園児の事業、こどもフェスティバルの協力を行った。また、民生委員との共催事業として「おやこ de ぽかぽか遊ぼうよ！」を 1 月に新たに開設した子育て支援・世代間交流センター“UP っぷ”にて実施した。				
今後の課題 と目標	フォローアップ研修や実践を通して人材育成に努めるとともに、サポーター発信で保護者に子育て支援の情報提供や自主的な活動ができるよう、より連携を深めていく。 また、第 5 期生の養成講座を実施し、サポーター登録者数を増やすことで、地域により根差した事業となるよう取り組んでいく。			
【課長コメント】 多くの地域で活動する事ができ、内容も幅広く豊富になった。今後も、サポーターの発想や持っている力を大いに引き出し、地域に密着した活動ができるよう環境づくりに努めていく。				

平成 30 年度点検・評価調書

I - 4

施 策 名	子育てにやさしい 環境づくり	担当グループ	子育て支援グループ	
重点事業	プレイセンター推進事業			
概 要	子どもに“自分で選ぶ遊び”を、親に“親のための学習”を提供できるよう、子育て家庭の親と子どもが会員となって協同運営を行い、地域の協力も得ながら親と子どもと一緒に成長できるプレイセンター活動を支援することで、子育てしやすい環境づくりを進める。			
成果と評価	【活動実績】			
	(平成 30 年 12 月末現在)			
	名 称	活 動 拠 点	活 動 回 数	会員登録組数
	たんぽぽの会	東野幼稚園	11 回	12 組
	こぐまの会	東池尻会館	13 回	22 組
	チェリービーンズ	東村公民館	11 回	14 組
	げんきっず	狭山池東集会所	12 回	17 組
	ヤミー！	自由丘会館	15 回	16 組
	ピーナツクラブ	東野地区公民館	11 回	15 組
	きらきらきっず	川向地区公民館	12 回	16 組
	◇7 団体での交流会を 2 回実施。			
今後の課題 と目標	市民協働事業として、プレイセンター活動の円滑な自主運営が行えるよう、各地区の民生委員やボランティアと連携して、サポートしていく。			
【課長コメント】				
継続した活動ができるよう進めつつ、新たなプレイセンターの立ち上げが可能な地域を検討していく。				

平成 30 年度点検・評価調書

施 策 名	子育てにやさしい 環境づくり	担当グループ	子育て支援グループ															
重点事業	発達障がい児支援事業																	
概 要	○発達障がいやサポートが必要な児童とその保護者を対象に、専門的な相談や個々に応じた療育の場「手をつなGO!」を提供する。 療育…小学校3年生までの児童を対象に隔週1回実施 相談…中学生までの児童又はその保護者を対象に随時実施 ○子どもの行動を理解し、より良い親子関係づくりをめざして、保護者を対象に小グループでの勉強会「ペアレントトレーニング」を実施する。																	
成果と評価	【実績】 ○「手をつなGO!」 (平成30年12月末現在)																	
	<table><tr><td></td><td>対 象</td><td>回数</td><td>件数等</td><td>内 容</td></tr><tr><td>相談</td><td>中学生までの児童、保護者</td><td>随時</td><td>95 件</td><td>情報提供、教育・保育、家庭生活等</td></tr><tr><td>療育</td><td>小学校3年生までの児童</td><td>隔週1回</td><td>20 人</td><td>就学前児童 13 人 小学生 7 人</td></tr></table>				対 象	回数	件数等	内 容	相談	中学生までの児童、保護者	随時	95 件	情報提供、教育・保育、家庭生活等	療育	小学校3年生までの児童	隔週1回	20 人	就学前児童 13 人 小学生 7 人
		対 象	回数	件数等	内 容													
	相談	中学生までの児童、保護者	随時	95 件	情報提供、教育・保育、家庭生活等													
	療育	小学校3年生までの児童	隔週1回	20 人	就学前児童 13 人 小学生 7 人													
《療育を受けた児童の変化》 ・個々に応じた支援計画の基、環境構成や視覚支援を行うことで、自信をもって、自立して行動することや、他者とのコミュニケーション力の向上が見られた。																		
《学校園の変化》 ・集団生活での様子を知るために、年2回学校園を訪問する。各学校園の教諭から個別の対応方法について相談も増え、連携が深まってきている。 《親の変化》 ・保護者のニーズにより丁寧に、具体的に対応することで保護者自身も、子どもの困り感に気づき、子どもの特性を理解し、支援できるようになってきている。																		
○ペアレントトレーニング 小学校3年生までの子どもの保護者を対象にし、10月から全5回実施した。																		
今後の課題と目標	今後も、より一層学校園との連携を深め、子どもにとってより良い環境となるよう努めていく。また、卒業生の保護者の相談体制・勉強会の充実に努める。																	

平成 30 年度点検・評価調書

I - 6

施 策 名	子育てにやさしい 環境づくり	担当グループ	子育て支援グループ
事 業 名	子育て支援・世代間交流センター整備事業		
概 要	子育ての不安や負担感を和らげ子育てを楽しみ感じていただけるよう、地域における子育て支援を総合的に推進するとともに、子どもや子育て家庭が世代を超えて市民と交流できる施設の整備を図る。 計画地：狭山四丁目 2303－2 他 敷地面積：1813.07 m² 建物概要：鉄筋コンクリート造 2 階建て 延床面積 1,888.44 m² 		
成果と評価	施設には、子育て交流ひろばと世代間交流ひろばがあり、就学前児童だけでなく、幅広い世代が利用できる施設となるように建設を行った。 また、市民からの公募により「UPっぷ」という愛称に決定した。 平成 31 年 1 月 21 日からの開設に際し、オープニングイベント等を開催した。		
今後の課題 と目標	子育て世代だけでなく、子どもを中心にすえて市民に広く利用、末永く親しまれる施設の運営をめざす。		
【課長コメント】 20 年ぶりの新設施設として、子育て支援と子どもを中心とした世代間交流を併せ持つ施設を、開設することが出来た。 今後は、その活用についてまちライブラリーなどさまざまな取組を試みていきたい。			

平成 30 年度点検・評価調書

I - 7

施 策 名	子育てにやさしい 環境づくり	担当グループ	子育て支援グループ
事 業 名	子育て情報提供事業		
概 要	子育て中の保護者や妊婦及びその配偶者等に、大阪狭山市の子育て支援情報をより効率良く発信するため、身近で利用しやすいツールとして携帯及びタブレット端末用アプリケーションを作成し、配信する。 子育てに関するイベント等をプッシュ通知し、必要な情報を素早く利用者に届けるほか、予防接種スケジュール・施設マップを作成し、内容の充実を図る。		
成果と評価	広報誌や市ホームページに掲載したほか、子育て支援センター・保健センター・ニュータウン連絡所・幼稚園・保育所等にもチラシを設置し、市民への周知に努めた。 平成 29 年 12 月に配信を開始し、平成 30 年 11 月末現在ダウンロード数は 1,228 件となっている。		
今後の課題と目標	より多くの人にアプリケーションを周知するため、転入・出生等受付窓口にてチラシを配布し、広報に努める。また、アプリケーションのダウンロードを促進するだけでなく、活用してもらえるように市内の子育て世帯向けのイベント等のお知らせを継続的に掲載するとともに、内容充実を図る。		
【課長コメント】 庁内の関係グループとも連携し、最新情報の配信に努めたい。 子育て世帯において、身近で利用しやすいツールとして、広めていく。			



平成 30 年度点検・評価調書

施 策 名	子育てにやさしい 環境づくり	担当グループ	子育て支援グループ																			
重点事業	利用者支援事業																					
概 要	子どもや保護者、妊婦が、教育・保育施設や子育て支援サービスを円滑に利用できるよう、相談や助言、関係機関との連絡調整などを行い、子育て家庭の個々のニーズにあった必要な支援を行う。また、子育て支援センター“ぽっぽえん”に「保育・子育てコンシェルジュ」を配置する。																					
成果と評価	【実績】 (平成 30 年 12 月末現在) <table><tr><td colspan="2">区 分</td><td>件数</td></tr><tr><td rowspan="3">相 談</td><td>面接</td><td>216 件</td></tr><tr><td>電話</td><td>11 件</td></tr><tr><td>メール</td><td>0 件</td></tr><tr><td rowspan="4">内 容</td><td>幼稚園・保育所・こども園</td><td>114 件</td></tr><tr><td>発達</td><td>33 件</td></tr><tr><td>育児・しつけ</td><td>47 件</td></tr><tr><td>その他</td><td>44 件</td></tr></table> ◇「保育・子育てコンシェルジュ」の存在も、保護者に広まり、相談内容・件数は昨年度に比べ増加している。 ◇今年度、新たに 2 人が子育て支援員研修を受講し、“UPつぶ”にも「保育・子育てコンシェルジュ」を 2 人配置した。			区 分		件数	相 談	面接	216 件	電話	11 件	メール	0 件	内 容	幼稚園・保育所・こども園	114 件	発達	33 件	育児・しつけ	47 件	その他	44 件
区 分		件数																				
相 談	面接	216 件																				
	電話	11 件																				
	メール	0 件																				
内 容	幼稚園・保育所・こども園	114 件																				
	発達	33 件																				
	育児・しつけ	47 件																				
	その他	44 件																				
今後の課題 と目標	教育・保育施設や地域の子育て支援事業等を提供している関係機関との連携を強化するとともに、子育て家庭に必要な情報収集に努める。また、保護者が安心して、気軽に相談できるよう、環境を整える。																					
【課長コメント】 関係機関等との連携を深め、支援体制の充実に努めたい。また、新設する子育て支援センターにおいても利用者支援事業を実施していく。																						

平成 30 年度点検・評価調書

I - 9

施 策 名	子育てにやさしい 環境づくり	担当グループ	子育て支援グループ
事 業 名	こどもフェスティバルの開催		
概 要	こどもフェスティバルを開催することで、学校園や地域との連携強化をめざし「つながりのある教育」を推進する。 【同時開催】 読書 e プラン表彰式 ・ 優秀作品表彰式 ・ 読書感想文、感想画コンクール、図書館を使った調べる学習コンクール入賞者によるプレゼンテーション ・ 優秀作品の展示		
成果と評価	市内の学校園 7 団体が参加し、大阪狭山市文化会館の大ホールでダンスや器楽合奏など学習活動の発表を行った。 練習の成果を発揮する達成感や舞台に立つ緊張感を経験する貴重な機会になった。また、一般市民向けに公開することで、子どもたちの活躍を見てもらうことができた。		
今後の課題と目標	大ホールの舞台に立つ経験は子どもたちの大きな財産になると考えられるが、学校園として参加する難しさがああり、参加希望数が減少してきた。今後は、子どもたちに発表する機会を与えられるよう、イベント内容や方法について検討していく。		
【課長コメント】 次年度以降、市内の幼稚園、保育所、こども園の数についても変化していく。関係機関との連携も含め、より効果的な方法を検討していきたい。			



平成 30 年度点検・評価調書

I - 10

施 策 名	子育てにやさしい 環境づくり	担当グループ	保育・教育グループ			
事 業 名	市立幼稚園等 3 歳児保育事業					
概 要	市立幼稚園、こども園において 3 歳児保育を実施する。					
成果と評価	【3 歳児在籍数】					
		東幼稚園	半田幼稚園	東野幼稚園	こども園	合計
	H31. 1. 1	30 人	19 人	12 人	21 人	82 人
	H30. 1. 1	28 人	18 人	20 人	20 人	86 人
	・ 3 歳児の園児数は昨年度より 4 人減少した。 ・ 今年度から保育時間の短縮期間を縮小し、6 月から通常保育を開始した。					
今後の課題 と目標	・ 適切な集団保育を提供していくためには、園児数を維持していく必要がある。					
【課長コメント】 3 歳児保育は 2 年目となり通常保育の開始時期を早めたが、大きな混乱もなくスムーズに実施することができた。 園児数の確保は大きな課題であるので、園を知ってもらい取組みを進めるとともに保育の質の向上に努めていく。						

平成 30 年度点検・評価調書

I - 11

施 策 名	子育てにやさしい 環境づくり	担当グループ	保育・教育グループ		
事 業 名	市立幼稚園等未就園児事業				
概 要	魅力ある園づくりを進めるため、未就園の子どもとその保護者を対象にした広場事業を実施する。				
成果と評価	【未就園児事業参加延べ人数】				
		東幼稚園	半田幼稚園	東野幼稚園	合計
	園主催分	736 人	315 人	438 人	1,489 人
	あおぞらひろば	159 人	54 人	68 人	281 人
	・2歳児を対象として園主催の広場事業を週1回（年間30回程度）実施した。 ・あおぞらひろばについて、0～2歳児を対象に認定子育てサポーターの協力のもと、広場事業を月1回程度実施した。				
今後の課題 と目標	・昨年度より市立幼稚園への入園希望者が増加しており、未就園児事業の実施回数の増加や保育見学会などの取組みが入園に結びついていることが伺える。これらの事業をさらに充実させていくとともに今後も魅力ある園づくりについて検討していく。 ・幼稚園、こども園をより広く、詳しく知ってもらうため、ホームページや子育てアプリによる情報発信を強化していく。				
【課長コメント】 園主催の未就園児対象事業は、市立幼稚園の存続にかかる重要な取組みであるので、今後も保護者に気軽に園に来ていただき、市立幼稚園の良さを知ってもらう取組みを進めていく。					

平成 30 年度点検・評価調書

I - 1 2

施 策 名	子育てにやさしい 環境づくり	担当グループ	保育・教育グループ		
事 業 名	市立幼稚園等子育て支援事業				
概 要	市立幼稚園及びこども園の通常保育終了後及び夏休みなどの長期休業期間中を含め、預かり保育を午後 5 時まで年間を通して実施する。				
成果と評価	【利用実績】				
	(平成 30 年 12 月末現在)				
	園名	延べ利用園児数		1 日あたり利用園児数	
		通常時	夏期休業期間	通常時	夏期休業期間
	東幼稚園	1,638 人	114 人	9.3 人	4.2 人
	半田幼稚園	1,360 人	101 人	8.0 人	3.7 人
	東野幼稚園	894 人	70 人	5.1 人	2.6 人
こども園	911 人	70 人	5.1 人	2.7 人	
合 計	4,803 人	355 人	27.5 人	13.2 人	
・今年度から、長期休業期間に加えて、登園時間前（午前 8 時 30 分から）にも保育を実施し、保護者の就労支援の充実に努めた。					
今後の課題 と目標	平成 31 年（2019 年）10 月から保育の必要性の認定を受けた場合には、預かり保育の利用料も無償化の対象となるので、法改正に合わせ、条例改正等を遅滞なく進めていく必要がある。				
【課長コメント】					
幼児教育の無償化の実施に伴い、保護者の就労支援の側面がより強くなる可能性があるが、子どもにとって心の育ちの場となるよう引き続き保育内容の充実に努めていく。					

平成 30 年度点検・評価調書

I - 13

施 策 名	子育てにやさしい 環境づくり	担当グループ	保育・教育グループ
事 業 名	幼保連携型認定こども園整備事業		
概 要	廃園後の西幼稚園と南第二幼稚園を幼保連携型認定こども園に移行する。		
成果と評価	平成 29 年度末で廃園とした西幼稚園及び南第二幼稚園の園舎の解体撤去工事を行い、7 月から運営法人において新園舎の新設工事に着手した。 現在、ほぼ順調に進行しており、平成 31 年 4 月に開園予定である。 ●旧西幼稚園 ・施設名 (仮称) 大谷さやまこども園 ・定 員 教育 75 人 保育 126 人 計 201 人 ・運営法人 学校法人大谷学園 ●旧南第二幼稚園 ・施設名 大野台こども園（移転・建替え） ・定 員 教育 75 人 保育 144 人 計 219 人 ・運営法人 社会福祉法人簡修会		
今後の課題 と目標	2 園の認定こども園化により、180 人分の保育の受け皿の拡大を図ることができ、昨年度よりも待機児童は減少する見込みである。		
【課長コメント】 第 2 期子ども・子育て支援事業計画の策定に向けて実施するニーズ調査を基に、幼児教育の無償化という大きな環境変化も踏まえ、保育ニーズの把握に努め、今後も待機児童を出さない取組みを進めていく。			

平成 30 年度点検・評価調書

I - 14

施 策 名	子育てにやさしい 環境づくり	担当グループ	保育・教育グループ			
事 業 名	英語教育実施事業					
概 要	幼児期から遊びを通して英語に親しみ、興味を持ち、学ぶことの楽しさを味わい、スムーズに小学校へつなげていくため、市立幼稚園・こども園の 5 歳児を対象に、市内で活躍されているボランティアを講師に招き、週 1 回程度、英語教育を実施する。					
成果と評価	【実施回数】					
	(平成 30 年 12 月末現在)					
		東 幼稚園	半田 幼稚園	東野 幼稚園	こども園	合計
	クラス数 (園児数)	1 (33 人)	1 (19 人)	1 (16 人)	2 (54 人)	5 (122 人)
	実施回数	19 回	23 回	23 回	40 回	105 回
	・昨年度に引き続き、週 1 回（年回 30 回）程度実施した。 ・ボランティアの方が工夫を凝らし、楽しく教えていただいた結果、自己紹介や簡単な日常のあいさつなどを英語でできるようになった。					
今後の課題 と目標	・保護者にも好評であり、子どもたちがより興味を持って楽しく学べるようさらに内容の充実に努める。 ・英語教育だけではなく、いろいろなものに興味を持って取り組むことの大切さを日常からも教育していく。					
【課長コメント】 子どもたちは熱心に楽しんで取り組んでおり、内容の充実に努めながら今後も引き続き実施していく。						

平成 30 度点検・評価調書

I - 15

施 策 名	子育てにやさしい 環境づくり	担当グループ	保育・教育グループ	
事 業 名	幼稚園就園奨励事業			
概 要	子ども・子育て支援新制度に移行しない私立幼稚園に就園する満 3 歳以上の園児にかかる入園料及び保育料の一部を補助することにより、保護者の経済的負担を軽減する。			
成果と評価	【補助限度額（平成 30 年度）】			
	階層区分	補助限度額		
		第 1 子 (ひとり親等)	第 2 子 (ひとり親等)	第 3 子以降
	生活保護世帯	308, 000 円	308, 000 円	308, 000 円
	市民税非課税世帯 市民税所得割非課税世帯	272, 000 円 (308, 000 円)	308, 000 円	308, 000 円
	市民税所得割課税額 77, 100 円以下の世帯	187, 200 円 (272, 000 円)	247, 000 円 (308, 000 円)	308, 000 円
	市民税所得割課税額 211, 200 円以下の世帯	62, 200 円	185, 000 円	308, 000 円
	上記以外の世帯	—	154, 000 円	308, 000 円
	【補助実績（平成 30 年 12 月末現在）】 交付決定者数 399 人（前年度 370 人） 補助総額 55, 936, 700 円 （前年度 49, 908, 300 円） 前年度に引き続き、国による幼児教育の段階的無償化に伴う補助限度額の改定や 4 年保育を実施する園の増加により、前年度の同時期に比べ補助件数及び補助金額が増加している。			
今後の課題 と目標	幼児教育の無償化の実施により現行制度が平成 31 年（2019 年）9 月末で廃止されるので、本市の実情に合った支給方法（償還払い、現物給付など）について検討していく必要がある。			
【課長コメント】 円滑に新しい制度へ移行できるよう、各幼稚園とも連携のうえ保護者に周知していく。				

平成 30 年度点検・評価調書

I - 16

施 策 名	子育てにやさしい 環境づくり	担当グループ	保育・教育グループ	
事 業 名	コンビニエンスストア収納事業			
概 要	保育所、幼稚園、こども園の保育料の納付機会の拡大と収納率向上のため、コンビニエンスストアでの収納代行業務を委託する。			
成果と評価	【利用実績】			
	(平成 30 年 12 月末現在)			
		こども園等保育料 (教育)	こども園等保育料 (保育)	計
	4 月	16 件	76 件	92 件
	5 月	24 件	122 件	146 件
	6 月	21 件	82 件	103 件
	7 月	21 件	79 件	100 件
	8 月	19 件	93 件	112 件
	9 月	22 件	140 件	162 件
	10 月	20 件	158 件	178 件
	11 月	12 件	87 件	99 件
	12 月	14 件	91 件	105 件
	計	169 件	928 件	1,097 件
・コンビニエンスストアは 24 時間対応であるため、日中に金融機関に行くことができない保護者にとっては便利であり、納付機会の確保の観点では有効である。				
今後の課題 と目標	収納率の向上や事務処理の効率化を図るうえで、口座振替納付を強く推奨していく。			
【課長コメント】				
口座振替納付を推進していくとともに、納付方法の周知を図り、収納率向上に努めていく。				

平成 30 年度点検・評価調書

I - 17

施 策 名	子育てにやさしい 環境づくり	担当グループ	保育・教育グループ			
事 業 名	民間保育園等延長保育事業					
概 要	市内の民間保育園、認定こども園において、延長保育を 1 時間から 2 時間実施している。 1 時間延長実施園・・・つばみこども園・山本こども園・花梨つばさ保育園・池尻なな保育園 2 時間延長実施園・・・大野台こども園・池尻保育園・きらり保育園・ルンビニ保育園					
成果と評価	【利用実績】 (平成 30 年 12 月末現在)					
	保育所等名	2 時間延長		1 時間延長		延長保育利用合計延べ 児童数
		延べ利用 児童数	(1 日あたり 利用児童数)	延べ利用 児童数	(1 日あたり 利用児童数)	
	大野台こども園	0 人	0 人	648 人	2.9 人	648 人
	池尻保育園	83 人	0.4 人	1,494 人	6.7 人	1,577 人
	きらり保育園	204 人	0.9 人	1,346 人	6.0 人	1,550 人
	ルンビニ保育園	113 人	0.5 人	1,314 人	5.9 人	1,427 人
	つばみこども園	—	—	23 人	0.1 人	23 人
	山本こども園	—	—	213 人	1.0 人	213 人
	花梨つばさ保育園	—	—	1,300 人	5.8 人	1,300 人
池尻なな保育園	—	—	120 人	0.5 人	120 人	
合 計	400 人	1.8 人	6,458 人	28.9 人	6,858 人	
今後の課題 と目標	昨年度に比べ、延長保育全体の利用者数は減少しており、時間延長の実施園の延長保育時間の拡大については、今後の利用状況を踏まえて引き続き検討していく。					
【課長コメント】 時短勤務制度の普及等により利用者は減少傾向にあるが、保護者の就労形態の多様化に対応するため、円滑に運営できるよう引き続き支援していく。						

3 点検・評価調書

Ⅱ 学ぶ力・生きる力を伸ばす教育環境づくり

- 「大阪狭山市教育振興基本計画」の計画期間満了に伴い、平成30年度から2か年かけて改定を行います。
- 第三中学校（特別教室棟等）の大規模改造工事を実施します。また、北小学校と南第三小学校の給食用エレベーターの改修工事を実施します。
- 学校施設の長寿命化を計画的・効率的に実施するため、施設の劣化状況を調査し、その結果に基づく「学校施設長寿命化計画」を平成30年度からの2か年で策定します。
- これからの学校園のあり方検討会を開催し、学校規模の適正化やコミュニティスクール導入に向けた検討を行います。
- 「大阪狭山市教育振興基本計画」の基本理念に基づいた「保育教育指針」を掲げ、学校（園）、保護者、地域のみなさんと連携しながら、これまでの取組みの継続発展を図るとともに、新たな教育活動を推進します。
- 学校力の向上を図るため、中学校元気あっぷ事業、学校づくり応援事業、学校まるごとパック事業を継続し、大学との連携や外部評価を進めながら、学校教育活動の充実を図ります。
- 学力の向上を図るため、先進地視察を継続的に行い、その成果を指導の工夫や改善に役立てます。
- 次期学習指導要領の全面実施に向けて、子どもの学習意欲を高める「主体的・対話的で深い学び」の視点から学習改善を推進します。
- ICT機器がより有効に活用できるよう、小中学校のすべての普通教室に無線LANを整備し、子どもたちの学習意欲を高めます。また、災害時に避難所となる屋内運動場（体育館）にも無線LANを整備し、災害時の通信インフラ確保に努めます。
- 教員による手づくり教材である「自ら学ぶノート」を活用し、学習習慣の定着を図ります。
- 中学生を対象とした学習支援を土曜日や長期休業中に実施し、子どもたちの学習環境の保障ができるよう努めます。
- 教員と学校図書館司書とが連携し、読書活動がいっそう充実できるよう指導するとともに、国語力向上の取組みを進めます。また、学校図書館の図書廃棄基準に基づき、学校図書の蔵書率向上と適切な更新に努めます。
- 授業だけでなく学校生活のさまざまな場面で、ALTと英語でコミュニケーションがとれる環境づくりに努め、生きた英語力の育成を図ります。
- 中学生全学年を対象にスコア型英語能力検定を実施し、生徒の「聞く・話す・読む・書く」の4技能をバランスよく育成します。
- 心の力の向上を図るため、「特別の教科道徳」の授業づくりや評価の充実に努めます。

- スクールカウンセラー（ＳＣ）やスクールソーシャルワーカー（ＳＳＷ）を積極的に活用し、いじめなど子どもを取り巻く諸課題の未然防止や相談体制の充実を図ります。
- 体力の向上を図るため、小中学校の教員で構成する「体力向上プロジェクト」による研究をさらに推進するとともに、学校生活全体を通じて、体力向上や集団づくりを促進します。
- 大阪府の人権教育推進事業の指定モデル校を中心に、発達の段階に応じて人権の意義・内容の重要性を理解し、「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること」ができる子どもの育成に努めます。
- 学校給食センターの改修工事を計画的に行い、より安全で安心な学校給食の充実を図ります。
- 配送用のコンテナワゴンや学校で使用する配膳台を計画的に更新します。
- 食物アレルギー除去食を引き続き提供します。

【主な事業】

1. 教育振興基本計画改定事業（教育総務グループ）
2. 学校施設長寿命化計画策定事業（教育総務グループ）
3. 学校施設大規模改造事業
【第三中学校大規模改造（特別教室棟他）工事】（教育総務グループ）
4. 小・中学校給食用エレベーター改修工事
【北小学校他給食用エレベーター改修工事】（教育総務グループ）
5. 防災拠点（屋内運動場）及び普通教室無線ＬＡＮ整備事業（教育総務グループ）
6. 学力向上推進事業（学校教育グループ）
7. 家庭学習バックアップ事業（学校教育グループ）
8. 学校評価・支援事業（学校教育グループ）
9. 学校まるごとパック事業（学校教育グループ）
10. 読書eプラン推進事業（学校教育グループ）
11. 支援教育事業（学校教育グループ）
12. 生徒指導支援事業（学校教育グループ）
13. 体力向上推進事業（学校教育グループ）
14. 家庭教育支援事業（学校教育グループ）
15. 英語教育支援事業（学校教育グループ）
16. 安全・安心スクール事業（学校教育グループ）
17. キャリア教育推進事業（学校教育グループ）
18. 学校給食センター施設改修事業（学校給食グループ）
19. 備品購入（コンテナワゴン等更新）事業（学校給食グループ）
20. 安全・安心な学校給食推進事業（食物アレルギー対応）（学校給食グループ）

平成 30 年度点検・評価調書

Ⅱ－１

施 策 名	学ぶ力・生きる力を伸ばす教育環境づくり	担当グループ	教育総務グループ
事 業 名	教育振興基本計画改定事業		
概 要	平成 26 年度に教育基本法第 17 条第 2 項に基づいて、本市における教育振興のための施策に関する基本的な計画を策定した。本計画の期間は、平成 27 年度から平成 31 年度までの 5 年間となっており、計画に基づいた施策の進捗状況の検証・評価及び新たな教育施策に関する課題に対応するため、計画の改定を 2 か年で行う。		
成果と評価	今年度は、教育振興基本計画策定委員会を設置するとともに、計画改定に向けた方針案等の組織内合意を得ることができた。また、総合教育会議にて現計画の振り返りからみる現状と課題について議論するなど、次期計画に向けた課題整理を行った。		
今後の課題と目標	市民アンケート等を実施し現計画の達成状況を確認するとともに、本市教育行政に対するニーズを把握し、来年度末に教育振興基本計画改定をめざす。		
【課長コメント】 今年度は教育振興基本計画策定委員会を設置するとともに、計画改定に向けた方針案等の組織内合意を得ることができた。次年度においては、的確な課題抽出等を行うとともに年度末までに策定委員会から計画改定の答申を得る。			

平成 30 年度点検・評価調書

Ⅱ－２

施 策 名	学ぶ力・生きる力を伸ばす教育環境づくり	担当グループ	教育総務グループ
事 業 名	学校施設長寿命化計画策定事業		
概 要	学校施設の長寿命化を図るため、平成 30 年度から平成 31 年度の 2 か年で計画策定を予定している。 対象 小・中学校の校舎及び屋内運動場 内容 ①学校施設劣化診断調査と評価 ②構造躯体の健全度調査 ③ライフサイクルコスト（LCC）の算出 ④学校施設整備の基本的な方針の策定		
成果と評価	今年度は、市内小・中学校の校舎及び屋内運動場の建物の劣化状況等について調査を行い、次年度の計画策定に向けた基礎資料を作成することができた。		
今後の課題と目標	次年度は、今年度実施した劣化診断調査等の結果に基づき、各学校のライフサイクルコストの算出や、施設整備に関する基本的な方針を定めたうえで、施設ごとの改修計画を策定する。		
【課長コメント】 次年度に策定予定の長寿命化計画に基づき、今後の施設改修を効率的・効果的に進めるとともに、今後の児童生徒数の動向や長寿命化計画で示される L C C の費用対効果も踏まえ、学校施設の在り方を検討しなければならない。			

平成 30 年度点検・評価調書

Ⅱ－３

施 策 名	学ぶ力・生きる力を伸ばす教育環境づくり	担当グループ	教育総務グループ
事 業 名	学校施設大規模改造事業 【第三中学校大規模改造（特別教室棟他）工事】		
概 要	第三中学校は建築後 37 年が経過し、施設が老朽化してきている。また、鉄筋コンクリート構造の建物は、適切な補修をすることによりライフサイクルコストを削減することができることから、平成 27 年度の教室棟改修に続き、特別教室棟他の改修を行う。 【工事内容】 ・屋上防水改修 ・建具改修 ・内装改修 他		
成果と評価	老朽化が進んでいた特別教室棟他の大規模改造工事を施工したことで、学習環境の改善や、照明器具の LED 化により、省エネルギー化を図ることができた。		
今後の課題と目標	大規模改造工事が未実施であり老朽化している学校が存在する。今後策定予定の学校施設長寿命化計画に基づき、計画的に改修を行っていく必要がある。 工事については、授業への影響を最小限に抑える必要があり、主に夏季休業中の限られた期間内で施工しなければならない。そのため、施工業者及び学校関係者と十分な話し合いを行い、効率的な工事工程・施工計画を立案する必要がある。		
【課長コメント】 学校現場の要望等を踏まえながら、特別教室棟他の大規模改造工事を事故なく施工することができ、快適な学習環境の整備を図ることができた。			

平成 30 年度点検・評価調書

Ⅱ－４

施 策 名	学ぶ力・生きる力を伸ばす教育環境づくり	担当グループ	教育総務グループ
事 業 名	小・中学校給食用エレベーター改修工事 【北小学校他給食用エレベーター改修工事】		
概 要	市立北小学校、南第三小学校に設置している給食用エレベーターは現在の建築基準法に既存不適格であり、また、保守部品の保存年限が経過しており、修理ができない状況である。 給食用エレベーターが使用不能に陥ると給食配膳が滞り、児童に多大な影響が出ることから改修を行う。 【工事内容】 ・市立北小学校 1 基 ・市立南第三小学校 1 基		
成果と評価	給食用エレベーターを改修したことにより、良好な給食配膳の作業環境を確保することができた。		
今後の課題と目標	年次計画を立て工事を進めてきた結果、市内のすべての小・中学校の給食用エレベーター改修工事を完了することができた。今後は、良好な給食配膳の作業環境の維持に努める。		
【課長コメント】 年次計画を立て工事を進めてきた結果、本事業を事故なく完了することができた。			

施 策 名	学ぶ力・生きる力を伸ばす教育環境づくり	担当グループ	教育総務グループ
事 業 名	防災拠点（屋内運動場）及び普通教室無線 LAN 整備事業		
概 要	災害発生時における緊急的かつ一時的な避難場所である防災拠点（屋内運動場）に無線 LAN を整備し、情報収集手段を強化する。また、普通教室においても、児童・生徒が教室内でタブレット端末等を有効活用できる環境を整え、ICT 教育環境を充実させる。 【無線アクセスポイント設置台数】 ■防災拠点（屋内運動場） ・各小中学校 1 校あたり 4 台 計 28 台 ■普通教室 ・小学校：131 台 ・中学校： 51 台		
成果と評価	防災拠点への整備は夏季休業中に実施し、平成 30 年 10 月より稼働することができた。 普通教室への整備は平成 30 年 9 月中に完了し、二学期途中から無線 LAN 環境を生かした授業を実施することができた。		
今後の課題と目標	防災拠点での運用については、スムーズな対応がとれるよう日頃から運用手順を確認し、非常時に備えておく必要がある。 また、普通教室の無線 LAN を有効活用するとともに、今後のさらなる ICT 教育の推進に向け、調査・研究を進めていく。		
【課長コメント】 計画どおりに無線 LAN 環境の整備を図ることができた。今後は、国や他市の動向を注視しながら無線 LAN 環境を有効活用できる ICT 機器の整備に努めたい。			

平成 30 年度点検・評価調書

Ⅱ－6

施 策 名	学ぶ力・生きる力を伸ばす教育環境づくり	担当グループ	学校教育グループ
事 業 名	学力向上推進事業		
概 要	・子どもたちの学習をよりスムーズに進めることができるよう、「さやまっ子ティーチャー」を全校に配置して、個別の状況に応じた学習指導をきめ細かく行う等、学習サポート体制を強化する。これにより、子どもたちの学習への意欲を高め、学力向上につなげる。 ・全国学力・学習状況調査で継続的に上位の結果を保ち続けている先進地を視察し、その取組みを積極的に取り入れることで、市全体の学力向上を図る。 ・小学校用自主学習教材を作成し、家庭や学校の朝学習などで継続的に学習に取り組み、自学自習力の育成をめざす。 ・大阪府教育庁や学識経験者の指導助言を受ける機会を増やし、子どもが主体的・対話的で深い学びを実現するための授業づくりの研究を推進する。 ・放課後や長期休業中に、大学生や地域の人材を「学習支援チューター」として活用し、継続的に学習支援を行う。 ・「理科支援員」として、大学生や退職教職員等の外部人材を小・中学校の理科の授業で活用することで、観察・実験の充実を図る。 ・「生きる力向上推進室」を設け、子どもたちの学力や体力についての分析、大学との連携等を進める。		
成果と評価	項 目	取組内容	成果
	さやまっ子ティーチャー	地域の方が各小・中学校の授業に入り、子どもたちの学習を支援する。	子どもたちがわからないことを積極的に質問し、安心して学習活動に取り組むことができ、学習への意欲が高まった。また、配慮を要する生徒の心の安定に結びついた。
	先進地視察	秋田県にかほ市の視察・体験研修に小・中学校の教員 4 人と指導主事が参加した。	管理職や学力向上担当者を対象とした報告会では、視察してきた人の感動やにかほ市の工夫が伝えられ、参考にすることができた。
	小学校用自主学習教材	各校の教員と市教委指導主事が教材を作成・配付し、自学自習、家庭学習を進める。	学校の朝学習や家庭での学習など各校で積極的に活用が進み、家庭学習の意識の高まりが見られた。
	授業改善	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組む。	意見や考えを伝えたり、広めたりすることで、深い学びのある授業が広がってきた。学校公開や校内研修を通して、改善が進むと共に I C T の活用も活発になってきた。
	理科支援員の配置	各校で支援員が、観察・実験の支援・補助を行った。	理科室の環境整備が進み、実験や観察を中心とした授業を展開できた。また、そのような時間数も増えてきた。
	生きる力向上推進室	研修や学校訪問を通じて教職員の育成や大学との連携、全国学力・学習状況調査の分析を行った。	全国学力・学習状況の分析や実習生の受け入れを含む大学との連携をスムーズに進めることができた。

今後の課題 と目標	・人材活用において、学校のニーズに応じた人材を確保・精選していく。そのために大学との連携を積極的に進めていく。 ・学習指導要領の改訂を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」のある授業づくりに引き続き取り組むとともに、教務主任や学力向上担当教員を対象とした「授業力向上研修」など、授業づくりに重点をおいた研修を実施し、小・中学校の校種間連携を図ることで指導方法に系統性をもたせる。 ・全国学力・学習状況調査の結果から「読む力」の育成に課題がみられた。今後は、学校図書館の活用を推進し、読書活動の充実を図ることで、子どもたちの「読む力」の向上を推進していく。 ・自学自習教材の有効な活用について各校に事例提供し、家庭教育・自主学習力の充実を図る。
【課長コメント】 先進地視察研修の成果や「さやまっ子ティーチャー」「理科支援員」等の地域人材の活用により、新学習指導要領のポイントである「主体的・対話的で深い学び」を促す授業づくり研究が進んできている。今後はさらに問題解決的な学習と読書活動とを関連付けた授業づくりの充実に取り組んでいきたい。	

平成 30 年度点検・評価調書

Ⅱ－ 7

施 策 名	学ぶ力・生きる力を伸ばす教育環境づくり	担当グループ	学校教育グループ
事 業 名	家庭学習バックアップ事業		
概 要	中学生を対象とした家庭学習支援を、長期休業中と 2 学期以降の土曜日を活用して実施する。学習環境を保障することで家庭学習の機会を増やし、子どもたちの学力向上をめざす。		
成果と評価	・中学校ごとに学習室を開設（狭山中学校は大阪狭山市役所内及びフリースクールみ・ら・い、南中学校は大阪狭山市立コミュニティセンター、第三中学校は大阪狭山市立社会教育センター）し、長期休業中に 10 回、2 学期以降の土曜日 10 回の合計 20 回実施した。 ・学習内容については、学校からの宿題や各自が持ち寄った学習教材で、一人で解決するには困難な問題について、家庭学習バックアップリーダーや家庭学習パートナーのアドバイスを得ながら自学自習に取り組んだ。 ・参加している生徒の保険加入についても予算計上し、公費負担しているが、保険を適用するような事故等はなかった。		
今後の課題と目標	・家庭学習パートナーの役割は大切で、思春期の中学生の発達段階を理解し、学習面だけでなく、一人ひとりの子どもに寄り添う力が求められる。適切な人材の確保が今後の課題である。 ・来年度も引き続き、生徒のニーズに応じた学習の場を提供し、家庭学習や自学自習力の向上を図る。 ・保険の加入手続きにおいて、参加生徒が追加されるごとに加入手続きが必要となるが、対応していく。		
【課長コメント】 家庭学習パートナーや家庭学習バックアップリーダーのサポートのもと、希望する生徒に対して長期休業中や土曜日に落ち着いた学習環境を提供することができた。参加した生徒は、自分なりに目標を立てて、計画的に学習を進める力が高まったと感じている。			

平成 30 年度点検・評価調書

施 策 名	学ぶ力・生きる力を伸ばす教育環境づくり	担当グループ	学校教育グループ
事 業 名	学校評価・支援事業		
概 要	学識経験者・元校長からなる「学校づくり応援団」が学校を訪問し、様々な取り組みの様子を参観し、具体的なアドバイスや学校評価を行うことを通して、学校力の向上を図る。		
成果と評価	今年度は狭山中学校、東小学校、北小学校において本事業を実施した。大学教授や校長経験者が「学校づくり応援団」として授業や行事、校内研究の様子等を継続的に参観し、子どもたちの様子や教職員の関わり方を直接把握した上で、効果的な取り組みを評価したり、改善すべき課題を指摘したりした。またその際、学校づくり応援団のメンバーがそれぞれ他市や他校の実践の紹介や経験を踏まえた具体的なアドバイスを行うことで、学校がこれまでの取り組みをふり返るとともに、学校公開の在り方や授業づくりなど、改善していくための具体的な支援ができた。		
今後の課題と目標	「学校づくり応援団」による学校評価を積極的に活用して、管理職だけでなく多数の中核教員が連携して学校力向上を推進している学校がみられ、大変効果的であった。小・中学校とも新学習指導要領の全面実施に向けて、専門家による客観的な学校評価をもとに、今後の学校づくりの方向性を整理する大切な時期に差しかかっている。今後も管理職だけでなく、教職員一人ひとりが学校運営の当事者としての意識を高め、組織的に学校力を向上させることができるよう、「学校づくり応援団」のより効果的な活用について検討していく。		
【課長コメント】 学校の教育活動全体における第三者評価は、学校運営の改善と、教育水準の向上を図るうえで必要かつ重要である。今後も学識経験者や元校長による客観的な評価を参考にしながら、新学習指導要領の全面実施に対応できる学校づくりに取り組んでいきたい。			

施 策 名	学ぶ力・生きる力を伸ばす教育環境づくり	担当グループ	学校教育グループ
事 業 名	学校まるごとパック事業		
概 要	学校をまるごと市内教職員や市民に公開する。全学級の授業や清掃活動、休み時間の様子や学習環境等について外部から評価を受けることで、学校運営の改善と発展をめざすとともに、各中学校区学校園の連携を深める。3つの校区からそれぞれ1校は発表する機会を設け、発表する学校の偏りがないようにしている。		
成果と評価	各校とも、学校目標や研究テーマに沿った授業を公開したり、実践報告を行ったりして、重点的な取り組みを市全体へ発信している。本年度は、他府県からも本事業を視察に来た教育委員会や学校があった。本事業を実施することで、学校の日々の取り組みが外部からの評価をうけ、教職員自身も自分たちの普段の実践をふり返る機会となり、学校運営の発展につながっている。授業の公開後には、校区の幼保小中の教職員による情報交換会や分科会などを行うなど、各校区の子どもたちの実態に即した課題について、共有化を図ってきた。また、今年度は大阪府の人権教育推進事業をうけた学校の発表もあり、人権教育の大切さについて、市内に普及する良いきっかけとなった。		
今後の課題と目標	本事業に期待する効果を実施校がどのように設定するかによって、事業実施後の効果や取り組みの方向性も少しずつ違ってきている。地域の特色の効果的な活用を伝えるだけでなく、学校文化や学校独自の取り組みを重点的に公開する学校も現れてきていることから、公開前にねらいを明確にし、より積極的に本事業を活用する視点が大切である。また、他校の教職員や市民から評価を受けることで、学校運営の改善と発展をさらにめざしていくために、それぞれの学校のニーズに応じた講師や大学教授など専門家の招聘や研究討議の持ち方を検討していく必要がある。		
【課長コメント】 他府県からの参加希望や、国事業の成果普及を兼ねた学校公開等、本事業の取り組みがますます充実してきている。今後も本事業の活用を通して、学校づくりの取り組みがさらに活性化していくよう、各校を支援していきたい。			

平成 30 年度点検・評価調書

Ⅱ－１０

施 策 名	学ぶ力・生きる力を伸ばす教育環境づくり	担当グループ	学校教育グループ
事 業 名	読書 e プラン推進事業		
概 要	読書感想画コンクール等の各種コンクールを実施し、発表や表彰の場を設定する。 子どもが本に親しみ読書の楽しさを知る中で、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにできるよう、全校に学校図書館司書を配置し、読書活動の充実を図る。 夏季休業中などに学校図書館を地域に開放し、親子で読書に親しむ機会を増やす。		
成果と評価	平成 22 年度から実施の各コンクールには、下記のとおり多数の応募があった。今年度からは、入賞作品について、こどもフェスティバルの場で受賞者本人によるプレゼンテーションを実施し、子どもたちの意欲向上につながる取り組みとなった。 ○読書感想文（小学生） 2,772 作品 ○読書感想画（保幼小中） 2,853 作品 ○図書館を使った調べる学習（小・中） 1,070 作品 また、e プラン図書、絵本の学校園への貸し出しを実施した。ボランティアを活用した「ひろば読み」は定着してきており、小学校では今年度も全校が実施した。幼稚園も 2 園が実施し、子どもたちが意欲的に絵本に親しみ、楽しむ姿が顕著に見られている。		
今後の課題と目標	学校図書館司書を小中全校に配置していることから、図書室の環境整備が充実してきている。今後は、模範的な取り組みを市内全域の学校に広められるよう、学校図書館司書同士の交流の機会を設定し、蔵書点検や環境整備の好事例の普及を図っていく。また、学校図書館司書の力量を高めるための研修も充実させていく。		
【課長コメント】			
学校図書館司書の配置を今後も継続し、学校の読書環境の整備を図るとともに、授業における学校図書の効果的な活用を進め、児童生徒の言語活動の一層の充実を図る。また、市立図書館との連携もさらに図っていく。			

平成 30 年度点検・評価調書

Ⅱ－１１

施 策 名	学ぶ力・生きる力を伸ばす教育環境づくり	担当グループ	学校教育グループ
事 業 名	支援教育事業		
概 要	心身に障がいのある児童生徒が、障がいの状態に応じた適切な指導が受けられるよう、「学びの支援員（介助員）」を各校に配置する。また、医療的ケアが必要な児童生徒が在籍する学校には、看護師免許を有する「特別学びの支援員」を配置する。 発達障がいのある子どもの理解のための教育相談、子どもの観察や発達検査結果に基づくアセスメント、またそれらに係る研修等を、学識経験者や医師等と連携しながら行う。 発達検査（WISC-IV）を活用した子ども理解や指導支援ができる教員の育成に向けて、専門家による継続的な研修を実施する。		
成果と評価	今年度、小中 37 特別支援学級に対して 20 名の学びの支援員を配置した。また、小学校 4 名・中学校 1 名の児童生徒に対して特別学びの支援員を配置した。 学識経験者や医師等と連携しながら、次の①～④の活動を実施した。 ① 学校現場への教育相談、指導支援に係る指導助言 ② 校内研修の講師 ③ 通級指導教室のサポートと読みにつまずきのある児童への支援である MIM 指導についての講師 ④ 資料・教材づくりやまとめ 発達検査（WISC-IV）については、今年度も検査の基本的な理解と子どものよりよい支援につながる活用について、具体的な事例を用いて研修を実施した。これにより、検査の結果に基づいた具体的な支援の方向性を話し合うまでの力をつけた教員を育成することができた。 小中学校の管理職を対象に、冬季休業中に「個別の教育支援計画・個別の指導計画」についての研修を実施し、学校経営上の留意点について理解を深めることができた。		

今後の課題 と目標	近年、支援学級に入級する児童生徒数が増加してきており、学びの支援員や特別学びの支援員をニーズに応じて確保することが難しくなっている。 一方、通級指導教室担当者やMIM指導主担者、支援コーディネーター等へ継続的に研修を重ねることにより、子ども一人ひとりへのきめ細かな指導がより充実するとともに、低学年におけるMIM指導を全小学校で実施することができた。今後も子どもの状態を適切に把握し、早期支援につなげられるよう取組みを充実させていく。 発達検査（WISC-IV）については、検査自体は専門家や医療機関が行うことを基本としながらも、結果から得られる具体的な支援の方向性について、学校現場でリーダーシップを発揮する教員のさらなる育成に継続して取り組むとともに、児童・生徒、保護者からの教育的ニーズに対して学校全体で支援していけるよう、さらに組織対応力を強化していく。
【課長コメント】 教育的配慮が必要への児童生徒への支援ニーズは、年々多種多様なものとなっている。今後も医師や学識経験者の指導助言を得ながら、個に応じた適切な教育を提供できるよう、教職員研修等を通じて研究を深めていきたい。	

平成 30 年度点検・評価調書

Ⅱ－１２

施 策 名	学ぶ力・生きる力を伸ばす教育環境づくり	担当グループ	学校教育グループ
事 業 名	生徒指導支援事業		
概 要	子ども・保護者・教員の相談対応やいじめ等問題発生時に、学校訪問による支援を行う「生徒指導サポーター」を配置する。 児童・生徒の悩みに対して専門的にアドバイスをを行うスクールカウンセラーや、子どもを取り巻く環境に注目して、関係機関との連携を図りながら問題解決にあたるスクールソーシャルワーカーを配置する。 各校の通級指導教室とも連携し、個別指導をサポートする。		
成果と評価	・生徒指導サポーターは定期的に市内の小・中学校を訪問して、各校の生徒指導事案に積極的に関わっている。各校での生徒指導事案を的確に把握し、適切な助言を教員に行うとともに、若手教員の学級経営上の悩み等を個別に聞き取り、アドバイスをを行うなど高いスキルを発揮している。 ・スクールソーシャルワーカーについては市単費で本年度４名を配置・派遣し、３つの中学校を拠点として、市内各小・中学校の要請に応じたケース会議や保護者相談に対応している。課題に対して福祉の専門的な立場から指導・助言することにより、児童・生徒や保護者の困り感に寄り添いながら解決に向けて具体的な取組みを進めることができている。 ・スクールカウンセラーについては２名を市費で配置し、１名は小学校を中心に巡回訪問、もう１名は個別対応による児童生徒の観察・面談や保護者面談、教職員との相談活動に取り組み、発達・心理の専門的立場から課題解決に向けた助言を行っている		
今後の課題と目標	・今年度は、市単費のスクールソーシャルワーカーが中心となって年４回(内３回実施済)の研修会を実施した。次年度は同研修を年６回実施し、スクールソーシャルワーカーとの連携をより密なものにしていく予定である。 ・スクールソーシャルワーカーとコミュニティーソーシャルワーカーとのスムーズな連携を図り、市内小中学校での地域資源の活用を充実させていく。		
【課長コメント】 昨今の生徒指導事案の解決にあたっては、児童生徒支援とともに、保護者への支援も欠かすことができない。今後も各校の生徒指導の取組みに対し、市教委より生徒指導サポーターやスクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー等の専門家を派遣することで、対応への支援を充実させていきたい。			

平成 30 年度点検・評価調書

Ⅱ－１３

施 策 名	学ぶ力・生きる力を伸ばす教育環境づくり	担当グループ	学校教育グループ
事 業 名	体力向上推進事業		
概 要	児童・生徒の体力・運動能力の向上をめざして、小学校に体育指導支援員、中学校体育に剣道指導支援員を配置し、体育指導の充実を図る。 運動会の組体操における安全性を確保するため、体力向上担当教員連絡会において指導上の留意点を確認するとともに、技を成功させるために必要な体力をつけるための低学年からの体力向上プログラムについて研究実践する。		
成果と評価	小学校体育指導支援員として、市内 7 小学校に 11 名を配置した。また、市内 3 中学校に 3 名の剣道指導支援員を配置した。外部指導者の専門的な指導支援により、きめ細かく安全な体育指導を行うことができた。 新体力テストの正確な測定の実施のため、各小学校に桃山学院教育大学の学生をサポートとして招聘した。測定の補助やデモンストレーションを行うことで、児童の実態を正確につかむための一助となった。 また、組体操の安全な実施に向けて、担当者連絡会で情報交換を行い、好事例を共有することで事故の未然防止に努めた。		
今後の課題と目標	本年度も全小・中学校の全学年で新体力テストを実施した。正確な測定が児童生徒の実態を把握するために最も重要であり、その結果から各校の体力向上における課題を見出すことができる点について、各校の理解を一層高めることができた。 また、組体操については事前に情報共有することで安全に配慮して取り組むことができた。児童の体力の状況に応じて演技の内容を柔軟に見直したり、従来のように高さを追求するのではなく、平面の動きを工夫した演技構成を提案している学校もあった。各校の安全配慮に対する意識は非常に高まってきているが、予想外の事故が生じる可能性をふまえ、今後も過去の事故事例を参考にしながら、安全な組体操実施に向けて研修を重ねていきたい。また、義務教育 9 年間を見通した体力と運動意欲の向上にも重点を置き、取り組みを進めていきたいと考えている。		
【課長コメント】			
全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果ふまえ、市全体の児童生徒の体力をふまえた安全な体力向上の取り組みを工夫していくとともに、子どもたちが楽しみながら運動に親しめる実践の開発に向けて、学識経験者のアドバイスを受けながら研究推進していきたい。			

平成 30 年度点検・評価調書

Ⅱ－１４

施 策 名	学ぶ力・生きる力を伸ばす教育環境づくり	担当グループ	学校教育グループ
事 業 名	家庭教育支援事業		
概 要	中学校区ごとに地域人材や学生等で支援チームを設置し、不登校や問題行動など課題のある児童生徒をもつ保護者に対し、家庭教育サポーターが個別訪問を通して、保護者や児童生徒への相談活動・学習支援を行う。		
成果と評価	保護者との面談を担当する家庭教育サポーターリーダー（12 月末現在で198 回活用）が中心となり、不登校児童生徒や家庭への支援等、相談活動及び学習支援を行っている。定期的に学校を訪問し、活動状況を報告しているので、連携も上手くとれている。 家庭教育サポーターリーダーは、大阪府が主催する家庭教育サポート事業の研修に積極的に参加したり、市の適応指導教室「フリースクールみ・ら・い」とも連携を図ったりするなど、スキルアップとネットワークの構築に努め、不登校児童・生徒や保護者へのサポートを行っている。 要請に応じて各校のケース会議にも参加し、市内の福祉機関職員、生徒指導担当教員やスクールソーシャルワーカーと連携して課題解決に努めている。		
今後の課題と目標	家庭環境や親子関係、子育ての悩みを気軽に相談できる相手を求めている児童・生徒や保護者は増加してきている。このような状況から、家庭教育サポーターリーダーのニーズは依然として高い状況である。生徒指導担当指導主事や各校の生徒指導担当教員ともさらに連携しながら、より効果的な活用に努める。 ただ、家庭教育サポーターの担い手である学生ボランティアが不足しており、児童生徒の状況に対して十分な数のサポーターを確保できていないことが課題である。		
【課長コメント】			
不登校傾向の児童生徒や、子育ての悩みを持つ保護者が依然として多い状況である。地域人材である家庭教育サポーター・サポーターリーダーが学校とともに児童生徒・保護者に寄り添い、相談相手となって問題解決を進めていくことは非常に意義のある取り組みであり、今後も継続的に活用していきたいと考えている。			

平成 30 年度点検・評価調書

Ⅱ－１５

施 策 名	学ぶ力・生きる力を伸ばす教育環境づくり	担当グループ	学校教育グループ
事 業 名	英語教育支援事業		
概 要	英語教育の充実のため、小学校 5・6 年生と中学校に外国語指導助手（ALT）を派遣するとともに、小学 3・4 年生の外国語活動の授業において、NPO 法人との連携を図る。 中学校全学年を対象にスコア型英語能力検定を実施、生徒の「聞く・話す・読む・書く」の 4 技能をバランスよく育成する。		
成果と評価	小・中学校に外国語指導助手（ALT）を派遣することにより、児童生徒がネイティブスピーカーの生きた英語に触れることで、授業における「聞く」「話す」活動を充実させることができた。また、小学校では NPO 法人と連携して英語の堪能な地域支援人材を派遣することにより、授業において英語に慣れ親しむ活動を充実させることができた。 スコア型英語能力検定では、生徒自身が「前回の成績から各技能がどれだけ伸びたか」を数値で確認することができるので、自分なりに到達目標を設定して意欲的に英語学習に取り組むことができた。また、スコア型英語能力検定を通して、教員が生徒一人ひとりの英語運用能力を把握し、効果的な授業づくりに反映させることができた。		
今後の課題と目標	スコア型英語能力検定の結果から、本市の生徒は 4 技能のうち「書く」技能面で力をつけている一方で、「聞く」技能に課題があることがわかった。これをもとに、小・中学校におけるさらなる授業改善が求められる。		
【課長コメント】			
小学校 5・6 年生の外国語教科化、3・4 年生の外国語活動導入に向けた移行期に入っており、今後も ALT や地域支援人材と連携したさらなる授業づくり研究が必要である。			

平成 30 年度点検・評価調書

Ⅱ－１６

施 策 名	学ぶ力・生きる力を伸ばす教育環境づくり	担当グループ	学校教育グループ
事 業 名	安全・安心スクール事業		
概 要	地域防災の担い手となる中学生の防災意識と防災行動力の向上を目的に、心肺蘇生法や AED 等救命手当についての「普通救命講習」を実施し、中学生が資格を取得できるよう取り組む。		
成果と評価	各中学校の保健体育の授業等で行った救急救命についての学習を踏まえ、危機管理グループ、消防救急グループ、市民協働・生涯学習推進グループとともに、全中学校 3 年生を対象に「普通救命講習」を実施した。生徒たちは講習のねらいをよく理解し、真剣に受講していた。 ・狭山中学校：5 月 22 日（火）・ 23 日（水）実施 193 名受講 ・南中学校：6 月 14 日（木）・ 15 日（金）実施 138 名受講 ・第三中学校：6 月 4 日（月）・ 5 日（火）実施 137 名受講		
今後の課題と目標	初めて心肺蘇生法に取り組む生徒がほとんどだったため、いざ実技となると躊躇する生徒も見られたが、安全安心推進リーダー等の助言を受けながら繰り返し取り組むことで、コツを学び取ることができていた。実際に声を出しながら真剣に取り組むことができた。今後も安全安心推進リーダーの支援をお願いしたい。		
【課長コメント】 地域防災の担い手となる中学生に対して、本事業を通して防災意識をさらに高めるとともに、「命の大切さ」への理解を深められるよう、今後も取り組みを継続していきたい。			

平成 30 年度点検・評価調書

Ⅱ－１７

施 策 名	学ぶ力・生きる力を伸ばす教育環境づくり	担当グループ	学校教育グループ
事 業 名	キャリア教育推進事業		
概 要	子どもが自ら企画・運営し、自分らしさを発見したり自信をつけたりする活動を通して、子どもの職業意識の向上と自尊感情の育成を図る。 タイムリー研修を実施し、中学校区の保幼小中の連携を通じた実践発表会や講演会を通して教職員の資質向上を図る。		
成果と評価	・全ての中学校区で作成しているキャリア教育全体指導計画をもとに取組みを進めることができた。 ・どの中学校区も独自の研修や担当者会議を開催し、各校の取組み内容の共有を行いながら進めることにより、校種間の段差や取組みの重複を少なくすることができた。また、長期間の見通しを持ち、保幼小中一貫した取組みを進めることができた。 ・中学校の教員が、校区の小学校 6 年生を対象に出前授業を行い、小中の学習段差の解消に努めた。		
今後の課題と目標	タイムリー研修での発表を通して中学校区の教職員が校区の保幼小中の連携や取組みの点検・評価を行う機会となっている。また、他の中学校区とも情報共有することができ、それぞれの校区の取組みに生かすことができている。今後は、取組みによる子どもたちの変容を客観的に把握し、次の取組みを工夫改善していく PDCA サイクルによる校種間連携が必要であると感じている。		
【課長コメント】 各中学校区における好事例については、タイムリー研修において市全体で共有化している。 新学習指導要領においては、地域と学校園との連携がこれまでより一層重要となることをふまえ、今後も地域と学校園との関わりに係る効果的な取組みを収集し、市全体に広めていきたい。			

平成 30 年度点検・評価調書

Ⅱ－１８

施 策 名	学ぶ力・生きる力を伸ばす教育環境づくり	担当グループ	学校給食グループ
事 業 名	学校給食センター施設改修事業		
概 要	安全・安心な学校給食の運営を図るには、老朽化した施設及び設備の改修を進めて行く必要があるため、学校給食センター改修工事（3期）を行う。 また、安全・安心な学校給食の運営を図るため、老朽化した貯湯槽を更新、エアカーテンを新設及び更新、調理場の温度、湿度の管理を徹底するため、エアコンを下処理室と調理室に新設を行う。		
成果と評価	1 成果 (1) 設計に基づいた今年度分に係る調理機器、貯湯槽、エアカーテン、エアコンの新設等工事が完了した。 2 評価 (1) 調理機器の改修や貯湯槽、エアカーテン及びエアコンの新設等により、衛生管理の徹底が図れた。 (2) 機器を更新等したことにより故障リスクが激減し、安全・安心な学校給食の運営を図ることができた。		
今後の課題と目標	学校給食センター改修工事（4期）実施設計に基づき、今後も老朽化した施設・設備の整備を行う必要がある。		
【課長コメント】 長期休業中でしか改修工事ができないため、今後も十分な計画をたてた上で改修工事を進めていく。			

平成 30 年度点検・評価調書

Ⅱ－１９

施 策 名	学ぶ力・生きる力を伸ばす教育環境づくり	担当グループ	学校給食グループ
事 業 名	備品購入（コンテナワゴン等更新）事業		
概 要	老朽化した配膳台とコンテナワゴンを安全面と衛生上の問題から必要数を入れ替え安全・安心な学校給食に努める。		
成果と評価	1 成果 配膳台 10 台とコンテナワゴン 6 台を入れ替えた。 2 評価 配膳台とコンテナワゴンを一部入れ替えたことにより故障のリスクが減り、衛生面が向上したことから安全・安心な学校給食の運営を図ることができた。		
今後の課題と目標	より安全・安心な学校給食を運営するために、今後も配膳台とコンテナワゴンを順次計画的に入れ替える必要がある。		
【課長コメント】 備品等については、学校用の備品も含めまだまだ古い備品が残っている。今後も計画的に更新を進めていく。			

平成 30 年度点検・評価調書

Ⅱ－２０

施 策 名	学ぶ力・生きる力を伸ばす教育環境づくり	担当グループ	学校給食グループ
事 業 名	安全・安心な学校給食推進事業(食物アレルギー対応)		
概 要	食物アレルギー除去食（デザートの代替含む）の提供を行うとともに、一人でも多くの児童、生徒が給食を食べられるよう、アレルゲンを含まない食材の研究を行うなど、より安全・安心な学校給食の充実を図る。		
成果と評価	1 成果 対象者に対し、卵、乳製品（牛乳、チーズ、ヨーグルト、バター、脱脂粉乳）、いか、えび、かにの 5 種類 9 品目を除去した食物アレルギー対応食を提供した。 ✓ 12 月末現在において、45 人（小学校 36 人・中学校 9 人）の児童、生徒に対し、除去食を提供した。 2 評価 献立を工夫することにより、児童、生徒及び学校の負担を軽減することができた。		
今後の課題と目標	保護者、学校、給食センター相互の連絡を密に取ることにより、誤食を防止し、より安全・安心な学校給食を提供する。		
【課長コメント】 献立表などの表示ミスなども大きな事故につながることもある。資料作成などについても充分チェックした上で周知を行っていく。			

Ⅲ 生涯スポーツの推進

- 市民の体力維持・向上を図るため、体育協会や総合型地域スポーツクラブと連携した事業を実施します。
- 地域住民とのコミュニケーションづくりを進めるため、狭山中学校区で「さやりんピック」を開催します。
- 市民が気軽にプロ野球観戦できるよう、大阪狭山市、富田林市、河内長野市と3市共催でドリームフェスティバルを実施します。
- 総合体育館（野球場）の高圧受電設備用ケーブルを改修します。また総合体育館の消火栓設備を改修します。

【主な事業】

1. ドリームフェスティバル事業（社会教育・スポーツ振興グループ）
2. スポーツ振興事業（社会教育・スポーツ振興グループ）

平成 30 年度点検・評価調書

Ⅲ－１

施 策 名	生涯スポーツの推進	担当グループ	社会教育・スポーツ振興グループ
事 業 名	ドリームフェスティバル事業		
概 要	プロ野球公式戦を身近で観戦することにより、スポーツに対する意識の高揚と、子どもたちの夢を広げることを願うとともに、行政をはじめ、地域の各種団体が支援・協力することにより、地域の活性化を図り、スポーツの振興、青少年の健全育成並びに市民生活の向上に寄与することも目的として、3 市（大阪狭山市、富田林市、河内長野市）共催ドリームフェスティバルを開催運営する。		
成果と評価	3 市共催で事業を実施したことで、担当者等の打合せを重ねる必要があったが、広域に連携できたことは意義深いことだった。当日はたくさんの観戦者が来場し、プロスポーツを身近に観戦でき、さらには選手とキャッチボールやベースランニングも体験でき、スポーツを楽しむこと十分味わえた。		
今後の課題と目標	観戦者や参加者の増加をめざし、周知方法の見直しや、より多くの子どもたちが、プロスポーツ選手と交流できる機会を増やしていけるような企画運営をしていきたい。 また、野球のみではなく、様々なプロスポーツ選手と交流できるような場を提供していきたい。そして必要とあれば、他市町村との広域連携も視野に交流を図っていきたい。		
【課長コメント】 今後については、他市町村や各種団体とのスポーツ事業の連携など、他の先行事例を研究しながら検討を進めていきたい。			

平成 30 年度点検・評価調書

Ⅲ－２

施 策 名	生涯スポーツの推進	担当グループ	社会教育・スポーツ振興グループ
事 業 名	スポーツ振興事業		
概 要	市民が、それぞれの体力や年齢、技術、興味、目的に応じて、いつでも、どこでも、だれでもスポーツを楽しめる生涯スポーツ社会の実現をめざし、その実現に向けて、スポーツ施設の整備を充実するとともに、市民、各種団体との連携を図りながら、市民にとって身近な地域における活動機会の充実や体力の維持・向上の取組みを支援する。 サタデースポーツや地域の小中学校体育館・運動場を平日の夜や休日を利用しての無料開放、また夏季プール無料開放を行う等、市民がスポーツに親しむ土壌を醸成してきている。 行政をはじめ、地域の各種団体が連携することにより地域の活性化を図り、スポーツの振興、青少年の健全育成並びに市民生活の向上に寄与することを目的としている。		
成果と評価	スポーツ施設の整備については、市民が安全に安心して使用できる施設をめざして、総合体育館及び野球場の高圧受電設備用ケーブル改修工事、総合体育館消火栓改修工事を実施した。引き続き、改修については、優先順位を決めて行っていく。 市内体育協会の協力のもと、土曜日の午前中に児童生徒を対象に行っているサタデースポーツ、また小中学校体育館や運動場の無料開放、市民が気軽にスポーツに親しむ場としての位置づけとなってきた。 総合体育館のトレーニングルームについては、昨年度より大幅な利用者数の増加し、市民の健康年齢の引き上げにも大きく貢献したと考えられる。		
今後の課題と目標	今後については、ニュースポーツや障がい者スポーツの導入など、それぞれのライフステージにあわせてスポーツが楽しめる生涯スポーツ社会の実現をめざし、各種団体との連携や施設整備に努めていきたい。 特に、働く世代にもスポーツに親しんでもらえるような取組みや子育てに役立つスポーツ教室等の事業を展開していきたい。		
【課長コメント】			
市民のスポーツに対するニーズを把握することにも努めるとともに、世代間を超えても競技できるニュースポーツの導入や障がい者スポーツの普及等を視野に入れ、安全・安心なスポーツ環境づくりに努めていきたい。			

Ⅳ 生涯学習の推進

- 社会教育センターの空調設備取替え工事を実施します。
- 大阪狭山市駅、金剛駅付近に設置している図書返却ポストを、新たに狭山駅付近にも新設します。

【主な事業】

1. 図書館管理事業（社会教育・スポーツ振興グループ）
2. 社会教育センター管理事業（社会教育・スポーツ振興グループ）

平成 30 年度点検・評価調書

IV－1

施 策 名	生涯学習の推進	担当グループ	社会教育・スポーツ振興グループ		
事 業 名	図書館管理運営事業				
概 要	南海電鉄狭山駅付近に「図書返却ポスト」を設置し、図書館利用者の利便性の向上を図る。				
成果と評価	南海電鉄狭山駅北西側階段 1 階部分に「図書返却ポスト」を設置し、平成 30 年 7 月 21 日より運用を開始した。				
	利用状況 (単位：冊)				
	平成 30 年	狭山駅	狭山市駅	金剛駅	合計
	4 月分		2,316	1,521	3,837
	5 月分		1,910	1,809	3,719
	6 月分		1,726	1,783	3,509
	7 月分	120	1,987	1,606	3,713
	8 月分	643	2,759	1,940	5,342
	9 月分	858	1,700	2,032	4,590
	10 月分	756	2,054	1,713	4,523
	11 月分	619	1,643	1,578	3,840
	12 月分	630	1,747	1,596	3,973
	合計	3,626	17,842	15,578	37,046
今後の課題と目標	利用状況、利用者ニーズ、運用コスト等を鑑み、「図書返却ポスト」の増設も視野に今後検討していく。				
【課長コメント】 市南部の利用者からは図書返却ポストの設置を求める声は届いている。利用ニーズ等を見極め今後検討していく。運用方法についても、指定管理者と連携し、よりよい図書館サービスの向上に努めたい。					

平成 30 年度点検・評価調書

IV－2

施 策 名	生涯学習の推進	担当グループ	社会教育・スポーツ振興グループ
事 業 名	社会教育センター管理運営事業		
概 要	老朽化した社会教育センター会議室 5 の空調設備の入替工事を行い、市民が安全で安心して利用できるように、社会教育施設の整備を行う。		
成果と評価	市民が安全で安心して利用できるよう、会議室 5 の空調設備の入れ替えを行った。		
今後の課題と目標	会議室 5 と同時期に設置した空調機がまだ 3 台あるので、計画的に空調機の入替工事を実施していく。		
【課長コメント】 市民が安全で安心して利用できるよう、優先順位を考えて計画的に施設改修に取り組みたい。			

V 歴史文化の振興

- 文化財や歴史文化遺産を活かした魅力的なまちづくりを推進するためのマスタープランとしての役割を果たす「大阪狭山市歴史文化基本構想」を策定します。
- 明治維新150周年、南海高野線開通120周年の節目の年を迎え、「(仮称)南海高野線120年の歩み」と題した企画展を、狭山池博物館・郷土資料館で開催します。

【主な事業】

1. 郷土資料館管理事業（歴史文化グループ）
2. 文化財保護推進事業
（大阪狭山市歴史文化基本構想の策定）（歴史文化グループ）
3. 狭山池の魅力発見活用事業
（狭山池シンポジウム）（歴史文化グループ）
4. 市史編さん事業（歴史文化グループ）
5. 埋蔵文化財発掘調査事業（歴史文化グループ）
6. 子ども向け講座実施事業（歴史文化グループ）

平成 30 年度点検・評価調書

V - 1

施 策 名	歴史文化の振興	担当グループ	歴史文化グループ
事 業 名	郷土資料館管理事業		
概 要	明治維新 150 年、高野線開通 120 周年の節目の年を迎え、大阪狭山市の歴史に対する愛情を深め、歴史文化の豊かなまちづくりを進めるため、企画展「南海高野線 120 年のあゆみ―はじまりは大小路―狭山間―」を開催する。 また、市立小学校 3 年生の単元学習に合わせ、むかしのくらしを紹介する「くらしの道具展」を開催する。今回は、「衣・食・住と稲作や漁撈」に関する資料を展示する。		
成果と評価	大阪府立狭山池博物館の特別展示室において、平成 30 年 12 月 8 日（土）から平成 31 年 1 月 27 日（日）まで開催する。特別展開催に際して、講演会を行った。 ・平成 30 年 12 月 8 日（土） 「鉄道構造物の土木遺産としての魅力―南海高野線を中心に―」 小野田 滋 氏（公益財団法人鉄道総合技術研究所情報管理部担当部長） 参加者数 91 人 また、小学生以下を対象とした講演会である「駅長のおしごと」に加えて、その他関連イベントを 3 回実施する。 平成 31 年 2 月 5 日（火）から 3 月 3 日（日）まで「くらしの道具展」を開催するとともに、市立小学校 3 年生の授業の一環として展示解説を行い、むかしのくらしについての学習を深める機会とする。		
今後の課題と目標	今後も特別展や企画展を開催し、市内外の方々に大阪狭山市が歩んできた歴史やこれまでの取組みについて知ってもらうことで、本市の歴史文化をより広く PR していく。		
【課長コメント】 今後も、特別展・企画展等を開催し、本市の魅力ある歴史文化遺産の周知を図り、歴史文化豊かなまちづくりに努めていきたい。			

平成 30 年度点検・評価調書

V - 2

施 策 名	歴史文化の振興	担当グループ	歴史文化グループ
事 業 名	文化財保護推進事業（大阪狭山市歴史文化基本構想の策定）		
概 要	「大阪狭山市文化財保護条例」「大阪狭山市文化財保護条例施行規則」に基づき大阪狭山市文化財保護審議会を開催し、市内にある文化財の保存や活用について調査・審議する。 また、「大阪狭山市歴史文化基本構想」を策定し、歴史文化豊かなまちづくりを進める。本構想は、平成 30 年 12 月 21 日～平成 31 年 1 月 18 日までパブリックコメントを実施し、平成 30 年度に計画の策定を完了する。		
成果と評価	平成 30 年 10 月 3 日(火)に第 1 回大阪狭山市文化財保護審議会を開催し、あらたに「東野天神講」を市指定文化財（第 10 号）に指定した。 「大阪狭山市歴史文化基本構想」策定については、平成 30 年 4 月 12 日（木）、7 月 7 日（土）、10 月 4 日（木）、11 月 28 日（水）に大阪狭山市歴史文化基本構想策定委員会を開催し、1 月末に策定を予定している。また、平成 31 年 3 月 23 日（土）には歴史文化基本構想シンポジウムを開催する。		
今後の課題と目標	今後も、市内に存在する文化財を保護及び活用するため、次期市指定文化財の選定、審議を行うとともに、歴史文化基本構想を活かし、歴史文化豊かなまちづくりに取り組んでいく。		
【課長コメント】 大阪狭山市歴史文化基本構想の策定を活かし、文化財の保存や活用に努めていきたい。			

平成 30 年度点検・評価調書

V - 3

施 策 名	歴史文化の振興	担当グループ	歴史文化グループ
事 業 名	狭山池の魅力発見活用事業（狭山池シンポジウム）		
概 要	「史跡狭山池保存活用計画」をもとに狭山池の継承活動を進めるとともに、シンポジウム等を開催し、狭山池の魅力を市内外に発信する。		
成果と評価	平成 30 年 7 月 25 日（水）に大阪狭山市狭山池総合学術調査委員会が開催され、平成 29 年度に策定した「史跡狭山池保存活用計画」をもとに、今後、史跡狭山池に関わる関連文化財を含め、どのようにして保存、活用していくかについて検討した。 平成 30 年 11 月 17 日（土）に開催した狭山池シンポジウムでは、「保存活用計画」の策定を記念して、パネリストに正田実知彦氏（福岡県人づくり県民生活部文化振興課 世界遺産室 宗像・沖ノ島遺産係 主任技師）、鈴木功氏（白河市建設部理事兼部次長）をお招きし、文化財としての「池」の保存と活用の先進事例を紹介していただいた。また、パネルディスカッションでは、コーディネーターに金田章裕氏（京都府公立大学法人理事長、京都府立京都学・歴彩館館長）、パネリストとして佐伯順子氏（同志社大学教授）、中西裕見子氏（大阪府教育庁文化財保護課文化財企画グループ長）を迎え、狭山池をどのようにして私たちのまちの文化遺産として守り、活用していくかについて考えた。		
今後の課題と目標	平成 29 年度に策定をした「史跡狭山池保存活用計画」をもとに、今後の史跡狭山池の保存と活用について検討していくとともに、引き続き、狭山池シンポジウムを開催し、本市の歴史や史跡狭山池のさらなる魅力発信に取り組む。		
【課長コメント】			
大阪狭山市狭山池総合学術調査委員会、文化庁及び大阪府の指導・助言をもとに、平成 29 年度に策定した「史跡狭山池保存活用計画」に基づき、郷土の誇りである史跡狭山池の歴史的価値を市内外に発信していきたい。			

平成 30 年度点検・評価調書

V - 4

施 策 名	歴史文化の振興	担当グループ	歴史文化グループ
事 業 名	市史編さん事業		
概 要	大阪狭山市の歴史や文化について、歴史資料の調査、研究、収集等を行うとともに、講演会等を通じて市民に対し普及活動を推進する。		
成果と評価	今年度の「歴史文化セミナー簡修館」は、大阪府立狭山池博物館において、策定中の大阪狭山市歴史文化基本構想の関連文化財群の中から狭山藩北條氏を取り上げ、「狭山藩の学芸と地域文化」をテーマとして開催した。 ・ 第 1 回：平成 30 年 8 月 26 日（日） 「北條氏朝の文事」 日下 幸男 氏（龍谷大学名誉教授） 参加者数 32 人 ・ 第 2 回：平成 30 年 9 月 1 日（土） 「狭山藩と南河内の在村学芸結社」 山中 浩之 氏（大阪府立大学名誉教授） 参加者数 36 人 ・ 第 3 回：平成 30 年 9 月 8 日（土） 「狭山藩の駿府加番と見聞録『日ごとの富士』」 山脇 大輝 氏（本市教育委員会） 参加者数 28 人		
今後の課題と目標	今後も大阪狭山市に関連する歴史的テーマを取り上げて講演会を開催し、本市の歴史に対する理解を深め、郷土に対する愛着や親しみの意識を育む。		
【課長コメント】 今後も、歴史史料の調査・研究及び収集を行うとともに、収集した多岐にわたる史料の継承と活用を図る取組みについて進めていきたい。			

平成 30 年度点検・評価調書

V - 5

施 策 名	歴史文化の振興	担当グループ	歴史文化グループ
事 業 名	埋蔵文化財発掘調査事業		
概 要	本市の埋蔵文化財を保護・記録するため、周知の埋蔵文化財包蔵地（遺跡）内での土木工事に伴う埋蔵文化財調査や遺跡外での試掘調査を実施する。		
成果と評価	平成 30 年 4 月 1 日（日）から 12 月 31 日（月）までの間に、遺跡内の発掘の届出が 165 件、遺跡外の試掘調査依頼が 3 件あり、発掘調査を 22 件、立会調査を 22 件、慎重工事を 120 件、試掘調査を 3 件、それぞれ指導を行った。		
今後の課題と目標	今後も、申請者と綿密な打ち合わせのもと、埋蔵文化財の保護に向けた調査、指導を実施する。		
【課長コメント】 今後も、市内埋蔵文化財の保護・記録を図るため、埋蔵文化財調査や試掘調査を実施するとともに、申請者に対し、適切な指導・助言を行う。			

平成 30 年度点検・評価調書

V - 6

施 策 名	歴史文化の振興	担当グループ	歴史文化グループ
事 業 名	子ども向け講座実施事業		
概 要	小学４年から６年生を対象に、夏季と冬季に「こども歴史塾」を開催した。		
成果と評価	夏休みこども歴史塾では、「戦国プリンセス物語」ほか４つの歴史に関する講座と工作を、冬休みこども歴史塾では、「二番隊組長が語った新選組」ほか２つの歴史講座と工作を実施した。 ・夏休みこども歴史塾（大阪府立狭山池博物館　ホール） 平成３０年８月８日（水）～１０日（金）　参加人数　２５人 ・冬休みこども歴史塾（大阪狭山市立公民館　多目的室） 平成３０年１２月２５日（火）・２６日（水）　参加人数　２６人		
今後の課題と目標	引き続き、こども歴史塾や出前講座を実施し、小学生の歴史への関心を高め、郷土に対する愛着や親しみの意識を育む。		
【課長コメント】 今後も、本市の貴重な歴史遺産を活用した学習機会の充実に努めるとともに、地域の伝統や文化とふれあい、郷土への誇りと愛着を育む一助としたい。			

大阪狭山市の教育に関する事務の点検及び評価報告（平成 30 年度実施分）

桃山学院教育大学 今西 幸蔵

本年度も、大阪総合保育大学の大方美香教授と大阪狭山市教育委員会の事務を点検、評価させていただいた。昨年同様、事前に「点検・報告書（素案）」を提供していただき、内容を子細に点検した。そのあと、平成 31 年 2 月 27 日に市役所において、各担当者との質疑応答や説明を受けることによって内容を明らかにし、評価を確実なものにするように努めた。

今西の全体評価であるが、大阪狭山市教育委員会の事務は、適切に実施されており、大きな問題を見ることはなかった。もちろん、細部における課題はあるが、それは大阪狭山市の今後の教育行政の発展に必要なことであり、直ちに改善すべき大きな課題はなかった。むしろ、円滑で安定した教育行政経営に高い評価を与えるべきだと考える。大方教授も同じようなご意見であったが、前年度評価において課題として指摘させていただいた事項が改善されており、職員が積極的に取り組んで下さっていることが結果としてあらわれていると考える。

次に事業毎の評価についての意見を述べるが、大方教授は幼児教育を主に、今西は学校教育及び学校外教育を主に担当した。以下、質問の順に点検・評価の結果を記したい。

最初に質問した項目が「学校規模の適正化」「コミュニティスクールの導入」である。大阪狭山市においても学校により生徒数の増減があるという回答であったが、長期的展望に立った学校規模への対応策を考えていただくこと、コミュニティスクールの実施に向けての方向性を探ることをお願いした。次に学校のトイレのウォッシュレット化の進捗を質問したが、経費のかかることであるので、順次改善に取り組んでいただきたいと考える。

大阪狭山市の教育の特徴として、各種サポーターによる支援活動がある。「さやまっ子ティーチャー」「学習支援チューター」「理科支援員」をはじめとする大勢の支援者がおられる。教育課題毎に対応、配置されている点にきめ細かさを感じる。経費の点で大変な面があるだろうが、今後も続けていただきたい施策である。

次に、学力問題にも関連することであるが、「読む力」の育成を課題としてあげた。市立図書館との連携も含めて「読む力」の育成が重要であることを共通認識とした。なお、私からの提案として「読む本の冊数」の増加に力を入れること、それには親も一緒に読んでいただけるような機会を提供して欲しい旨の発言をした。この課題についても、サポーターとしての学校図書館司書の配置が必要であると考えるので、現状の施策を維持、充実していただきたい。

生徒指導について、本市は他の自治体と比較して不登校児童数が少ない。それは幸いであるが、実際におられる不登校児童・生徒への優しい対応が望まれる。具体的には、「フリースクールみ・ら・い」等との連携を強め、すべての子どもが毎日、笑顔で過ごすまちづくりをお願いする。

「外国語」教育における「聞く」技能の向上が課題であると認識しておられるが、スコア型英語能力検定の結果を精査し、具体的技能の向上を図っていただきたい。また、キャリア教育に関わって、子どもの職業体験学習のプログラムづくりを考えてほしい。

以上、今後に取り組んでほしい事柄を列举したが、各グループが連携・協力して機能的な仕組みをつくり、相互作用的に効果をあげる工夫が必要であると考えます。

最後に全国学力・学習状況調査の結果（平成 30 年度実施分）についてである。これまで本市は、全国的にはほぼ平均、大阪府においては常に好成績であった。今年度についてもこの傾向は大きくは変わっていないが、細かく見ると課題があると感じる。過去に課題として指摘させていただいた小学校・中学校国語科の結果が必ずしも満足できるものではなかった。国語科は、読解力育成の中心的な教科であり、さらなる改善への工夫を必要とするであろう。他の教科に影響がないとは言えないと思うからである。朝学（読書、計算、

漢字など)の充実も方策だろう。

大きな問題として、国の施策として日本の子どもたちの学力観の変化が起きている。「主体的・対話的で深い学び」(アクティブ・ラーニング)を導入する体制ができているだろうか。今回の調査結果をふまえて、「資質・能力」を重視する新しい時代の学力の育成について、学力問題検討委員会のような組織を作り、将来に向けて考える時期が来ているのかも知れない。

以上、平成30年度の大阪狭山市の教育に関わる事項の点検・評価である。良好な現状に満足せず、次の時代に向かってのチャレンジしていく教育行政を期待する

大阪狭山市の教育に関する事務の点検及び評価報告（平成 30 年度実施分）

大阪総合保育大学 大方美香

平成 30 年度においても大阪狭山市教育委員会点検・評価を依頼され、桃山学院教育大学の今西 幸蔵教授とともに平成 31 年 2 月 27 日に調査を実施させていただいた。資料点検・評価も含めた結果を以下のように報告する。

同市教育委員会事務局からは事前に「平成 30 年度点検・評価 報告書（素案）」が提供された。素案は、丹念に自己評価されており、前年度の反省評価に基づき改善された教育実践の実績を書類として確認することができた。質の向上を目指した努力を感じた。次に大阪狭山市教育委員会の実態について、今西 幸蔵教授とともに内容確認を行った。各部署が課題意識や目標意識をもち、実直に一致協力して教育行政に真摯に取り組んでいることがわかり、教育行政の姿勢が高く評価された。特に、課題意識や目標意識が実直に表記されている。評価担当者としては何よりのことと考えている。

次にいくつかの問題点と課題を示すが、これは大阪狭山市教育委員会の教育行政に役立てていただけたらとの思いからである。全体として特に問題はない。

課題としては、幼児教育の無償化、2020 年を目指した長期的取り組み（教育として何を子どもに育てなければならない時代なのか）を俯瞰した計画及び「資質・能力」として 0 歳～18 歳までまさに縦につながる育ちの連続性、教育の継続性や支援の連続性をどのように考えていくのか。街作りや人材養成といった「新しい社会の課題」をどのように考えるのか。今後は、短期的視点と長期的視点が必要ではないかと意見交換がされた。大阪狭山市の長期計画としての的確に回答がされた。

3 歳児保育を平成 29 年度より開始し、開始当時は保育時の受け入れは短縮を行っていたが、平成 30 年度からは 4・5 歳児と同じ通常保育を 6 月から開始するなど課題解決に向けた取り組みが伺えた。また、平成 30 年度より園主催で週 1 回の 2 歳児事業を実施（平成 29 年度は月 1 回）し、将来的には入園につなげるように専属の職員をつけて創意工夫を行っている。また、平成 30 年度からは就労している人に対応できるよう、時間を拡大し、平成 31 年度 10 月から無償化に対応するため、アンケート調査等も行い、保育内容の充実を図っていくことが回答された。

放課後こども教室（大阪狭山市ではさやま元気っこ推進事業）については、親も参加できる活動拠点を設け、待機児童の解消の一助として、さやま元気っこ推進事業の講師等の確保に努めている。また放課後児童会の支援員は月 1 回ほど定例会を開き、支援が必要な子どもに対する研修や、保護者対応研修、性教育研修などを実施している。巡回指導員として、OB の校長先生を採用しており、学校心理士の専門性の高い指導助言及び嘱託の支援員の雇用を開始している。放課後児童会、さやま元気っこ推進事業、民間・地域の協力によって、子どもの居場所づくりを進め、子どもの選択肢を増やしていきたいなど新たな活動に期待が持てる回答であった。

今西 幸蔵教授は、学力基盤が変わってきている（特に 2007 年の要領改訂が小・中のターニングポイントである。）アクティブラーニングや学力観について教職員の研修及び認識について指摘があった。資質能力（コンピテンシー）を上げる教育が大切であり、資質能力（コンピテンシー）レベルを上げる教育と学力テストはリンクしていること、教員がその流れを理解し教えていく必要があることを示唆された。国語以外の教科の成績には、国語の読む力・聞く力が響いているとの指摘もあり、国語力の弱かった小学生が中学生になり、今回の成績に影響がでてきたと考えられる。中学校の数学の値が低いことについても指摘があり、中学校の特に数学 B の平均正答率が低いことは、読む力・聞く力の低下が響いているのではないかと。大阪狭山市は大阪府の上位の学力であったのに、今回の結果を見て危機感を感じている。原因をつきとめて、対策委員会を作るなど検討してみてもいいかという厳しい意見も付された。

真摯な取り組みをされる大阪狭山市の次年度に期待したい。

資料編

- ① 平成 30 年度市内小中学校の在籍数、学級数
- ② さやまっ子の夢をふくらませる教育
- ③ さやまの支援教育
- ④ 主体的・対話的で深い学び
- ⑤ 子どもが毎日、笑顔で過ごすために
- ⑥ 平成 30 年度全国学力・学習状況調査における結果と分析の概要について
- ⑦ 平成 30 年度大阪狭山市読書 e プランに係るコンクールの表彰について
- ⑧ 啐啄（134 号～142 号）
- ⑨ 学校給食における食物アレルギー対応について
- ⑩ 平成 30 年度夏休みこども歴史塾チラシ
- ⑪ 歴史文化セミナー簡修館チラシ
- ⑫ 大阪狭山市立郷土資料館企画展 明治維新 150 年・高野線開通 120 年記念
「南海高野線 120 年のあゆみーはじまりは大小路ー狭山間ー」チラシ
- ⑬ 狭山池シンポジウム 2018 チラシ
- ⑭ 平成 30 年度冬休みこども歴史塾チラシ
- ⑮ 市立幼稚園、認定こども園、民間保育所、小規模保育事業の在籍数、定員数
- ⑯ 第 11 回おおさかさやまこどもフェスティバルチラシ
- ⑰ あおぞら&あそびのひろばチラシ
- ⑱ ぽっぽえん利用者支援事業ー利用のご案内ー
- ⑲ 大阪狭山市発達障がい児等支援事業「手をつなGO！」
- ⑳ ペアレントトレーニング～つながろう～
- ㉑ 親子で楽しもう チェリービーンズ参加者募集
- ㉒ 「たんぽぽの会」 参加者募集
- ㉓ 東池尻「こぐまの会」 参加者募集
- ㉔ げんきっず 参加者募集のご案内
- ㉕ 親子であそぼう ヤミー！！ 参加者募集
- ㉖ ピーナッツクラブ参加者募集
- ㉗ 親子であそぼう きらきらきっず 参加者募集
- ㉘ 大阪狭山市子育て情報アプリ さやまっ子
- ㉙ “UP っぷ” オープニングイベントのお知らせ
- ㉚ 未就園児事業チラシ（東幼稚園・半田幼稚園・東野幼稚園）